WASON
Oct. 1890
no. 234

女學雜誌

明治二十三年十月十一日發行
第二百三十四號
一冊六錢。 毎土曜日發兌

板垣伯を訪ふ記
泣て姉妹に訴ふ（清水豊子）
婦人國會傍聽論
親子論
岡山孤兒院の記
無學女の貞德乎（豊田芙雄）
山田美妙齋祝歌

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 234. OCTOBER, 11TH. 1890.

EDITORIAL:—Parent and Child.

MISCELLANEOUS:—Is Illiterateness a Woman's virtue? (Toyoda Fuyū) A Poem, Congratulating Mr. Iwamoto. (Yamada Bimio.) An Ostentation. The Spirit of Japanese Etiquette. (Ogasawara Seimu) Biblical teaching on Divorcement. Several Poems. Miss Clara Barton, the Philan thropist. Humorous.

NOVEL:—The little Lord Fauntelroy. (Wakamatsu Shidzu.)

CRITICL NOTES:—"Tanima no Himeyuri" (Muzōshi) "Text book of Moral Science." "Woman's Paper" "Tsubomi."

CONTRIBUTED CRITICAL NOTES:—On reading the "Improving method of Boarding Houses for Students," The evening school for "Youngman's association Society."

CONTRIBUTED ARTICLES.

OPEN LETTERS.

SUPPLEMENT. Discourse on the female audiance to the "National Conference." An interview with Count Itagaku. (Shimidzu Toyo).

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

第二百三十四號目次

●社說 親子

●雜錄 無學是れ女の貞德乎（豐田英雄子）○巖本君を祝する歌（山田美妙）○見えばる○女禮の精神（小笠原清務）○離婚の是非聖の教○和歌の浦波○慈善家クラ、ハートン女史○賊子鳥音に感ず（しのぶ）○岡山孤兒院の記（農科大學生）

●小說 小公子（若松しづ子）

●批評 谷間の姫百合（撫象子）○倫理教科書○女新聞○つぼみ

●寄送批評 青年會＝夜學校○讀下宿屋改良論

●寄書 紫紅愛するに足らず○古人の理想せし紳士佳人

●開書 觀宇宙生に答ふ（巖本善治）

●交詢 結婚の大儀○外數件

●時事 內勅○勅撰○勅撰歷替はろさいふ乎○民法○時事欄○東京府會○內暴言○北海の囚徒○板垣伯の廢娼論○山梨矯風會○女編輯○福澤翁さ北垣知事○女新聞○廢刊○藝妓の訃音を聞て大臣弔詞零音を送る●片々 鳥海女學校○大日本婦人衛生會○着色煙管の禁止○條約改正祈禱會○京都婦人慈善會○教員の溫習○地方の禁酒會○陸奧夫人○赤十字社々員歸京○大瓢獻納○便利の手袋○生存者の眞影

附錄 女學時事婦人國會傍聽論○泣て姉妹に告ぐ○板垣伯を訪ふの記（清水豊子）

婦人矯風會 事業擴張 運動費 慈善會

我會明治十八年以來世の中に立ち、多少風を矯め俗を直くすることに力を盡しぬ。贊成助力を寄せ玉へるの人少なきにあらねど、大抵女性家政に忙はしきのいさまく〳〵僅かのヒマを窺すみ內用に餘裕なきの會計より辛くも其僅を節儉し、もて會の運動費に充てぬ。然るに六年間の長き月日、追々に會の事業を擴張して、世の中に盡力したる事の少なからぬは、素こ不可思議の運なり。然りこ云へ共世上同志の有力者にして若し妹等が微志の在る所ろに同情を賜ひ更に其高助を惠み玉ふとあるにあらずんば、目前大山の如くに横はる數多の邪風惡俗を矯止するに當つて妹等が力いさも〳〵足らざるとを感じ前途甚はだ心細の歎あり此に於て二三の兄弟我會の爲に事業擴張の運動費を募集するとに盡力せられ、寶生九郎氏の親切なる慈善によりて來る十一日午后一時より芝紅葉舘能樂堂に於て慈善能樂を催ふし、切符賣上の餘金を以て會の運動費に供えられんとす。願はくは世上同志の兄姉諸君、右二三の兄弟及び寶生氏の厚意一さ方ならぬを躰し、亦た妹等が志望只だ國を愛し民を思ふにありて、而して此憂ひあるが爲めに困苦大方なるとを憐れみ、廣ろく且つ多く其入場券の賣捌方に力を添へ玉はんとを、只管らに祈る。同日の能樂及び入場券の賣捌方左の如し、

入場券

特別 一圓
並券 廿五錢

明治廿三年十月十一日

芝公園地內於能樂堂
午後一時ヨリ開會
晴雨共

番組

囃子 龍田
松本金太郎
津村又太郎 増見仙太郎
三須錦吾 一噌包太郎
野村與作

能 船辨慶
寶生九郎

末廣狩
尾上新次
石井一齊 増見仙太郎
三須錦吾 一噌包太郎
野村捨五郎

附 祝言

明治廿三年十月十一日

發起人 婦人矯風會

賣券所

當日門前
女學雜誌社
警醒社
民友社

女學雜誌 第二百三十四號 明治二十三年十月十一日發兌

社說

親子

慷慨國を憂ひ、豪放大事に留念するの人は、心眞實にして情け至つて切なるものなり。吾人頼山陽が詩集を觀る每に、屢ば此の理わりを想起し、彼が孝心の深きに感ずると共に、世の輕薄なる書生輩が口を理論に藉つて人情の神聖を無みするに痛怒せずんばあらず。歌つて云く、迎レ母遊ニ上國一、送レ母還ニ故國一と、何んぞ其聲の親切にして且つ雄々しき哉、是れ他日姦邪を罵倒し、三軍を叱咤するの聲音にして、冷笑愚弄の輕々調にあらず、情け淺き人の怒りは遂に世を益するに足らざるもの也。侍輿短歌に、

「母坐ニ籃輿一兒草鞋。隔ニ著輿窓一相傳杯。小歇ニ野店一擘霜菓。
兒獻母酬咲顔開。」

かゝる樂しみは寒腸兒の得て味はふとを得ざるもの也。夫れ茫々たる宇宙間に地球懸り、陸あり水あり會離定めなき間だに國を限り、宛がら修羅城に似たる艱難苦辛のうき世に生れ出でゝ、身外万景悉々く未見未知熟なるの時、すでに吾を子なりとして愛でいつくしみ、爾來幾層の憂ひと涙とを以て鞠育撫養する所ろの人は、抑もわれに何等の關わりある人なりや。われ天則の支配を蒙むつて母の胎内に宿れるより此の方、たゞ母を苦しませ、父を痛ましめ、夜もすがら安き眠りなく、晝を通して止みなく心重からしめ、而して生れ出でゝより尙一ときわの難儀を掛くるとあるのみ。われ生れざる以前、及び生れし此の方、抑も何の功らありて父母の愛を要求すべき。父母の愛は只だ與ふるのみ、報ひを要むるとあし、先づ惠むのみ、未だ嘗て其惠みを促がすべきものはあらず。此の故に、報ひあくして與ふるを慈善と云はゝ、父母が其子に於けるの愛は、慈善中の尤とも大ひなるもの也。身を捐てゝ他を愛するを犧牲と云はゝ、父母が其の子の爲めに己を忘るゝの仁は、犧牲中の尤とも尊ときもの也。グローシアス、子供の年代を三つに分つ、而して年代每に、親の看護、子の義務に相違ありと云へり。第一は、東西を辨たざるの初より、辨別の念略ぼ定まる迄の時代なり。第二は、分別すでに定まり、一個人として獨立するの智力を備具し、而して尙ほ親に屬するの時代あり。第三は、男兒すでに娶り、女兒すでに

嫁ぎ、各自別に一家を設けて全く父母の膝下より離るゝの時代あり。〃ローシアスは、父母の權年代の立つと共に減じ、子の義務長ずると共に薄らぐと云へり。左れど、父母の愛と父母の憂いとは、あに子の幼なきと長けたるとに由りて異なるとあらんや、幼なき時には幼なきものを思ふの煩ひあり、長けたる時には長けたるものを思ふの憂ひあり、父母が其子に對するの深痛深憂は、未だ生れ出でざるの先より、すでに死したる墳墓枯骨の下に迄て至る、一日として心ゆるむの時あるとなし。左れば子たるもの亦た其御心根を察し、終生終身、之に對して輕忽の念寸刻だも之れある可らず。

蝶の天に舞ひ登るとき、螟蛉を嘲けり、己が飛揚するによつて、他の地にはらばふを笑ふ、不孝なる輕薄兒が、親を忘るゝもの之に似たり、賤劣限りなし、不埒極まる所なし。如此き兒あに天下に何事をか爲さん、忠臣は孝子なり、愛國者は愛家の兒なり、先づ其親に孝ならざるもの、安んぞ民に良なるべき、安んぞ帝に忠あるべき、安んぞ神に信あるべき。すべての善德善行は先づ親に孝なるより發し來る。

然りと雖も、子は親の子にあらずして、天地間の愛子なり、親は之を產み、之を育し、之を敎へ、終身之を保護す、親は天地に代るの大保護者なり。親は惣べてに優りて其子の上に全能權を所有すと云へども、之を其の所有物件の如くに亂用暴待するとあたはず、之れ言ふ迄もなきと也。親が子に對して權を有するは、たゞ之を善に導びかんが爲め也、之を善く育て、之に善く敎へんと欲せば、先づ之が上に權を有ちて之が方向を善導せずんばある可らず、之れ親が其子に於ける有權者たるの所以なり。哲學者フヒクテ其倫理學に云へらく、親が其兒の自由權を幾分か侵害するは、之れ侵害するにあらずして利益するなり、親が其兒に對するは兒の人性すでに成熟したるものとして之を待せず未だ熟了せざるものとして之を看護す、之が自由權に關はるは之を敎育せんが爲め也と。此故に、親の其兒に對する、當に謹愼嚴正なるべし、敢て私意我念を狹はさむとある可らず、謹みて天地の至理を躰し、上帝の命を蒙むつて、之を管督するの志念を失ふとある可らず。或人の禱りに、

……此は吾等が子に非ず、アナタの御子あり、吾等がアナタの御子を呼びて己れのものとなすは何如斗りの光榮ぞ、願はくは吾等が愛を嚴そかなる淸きものとあらしめ玉へ、吾等に深く其責任を覺へしめ玉へ。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

而して、兒が親に從ふは、必らずしも正義にのみ是れ從ふと云ふにあらず、未だ自ら正義を判知せざるの前、すでに先づ之に服從することを要す。たゞ正義あるが爲めに從ふと云ふは是れ理に服するものにして、情に從ふものにあらず、兒の親に對するや、先づ情に於て悦服喜隨せずんばある可らず。蓋し服從の念慮は、德義上極めて大切の情緒なり。之れ無くんば、崇敬、歎美、謹嚴の觀念起り來らず、大ひなるもの、淸きもの、正しきものを見て、之を敬拜するの心あることなし。如此き人は、英雄を見るも之を崇むることなく、眞理を見るも之を重んずることなく、常に輕薄にして万事を冷嘲す。如此き兒あるの家には災ひ降り、如此き民あるの國には亂れ止むことなし。左れば兒が親に對して服從するの敎へは、至大至重の敎へなり、國律に服從し、天則に服從し、帝を畏れ、神を敬ふの念ひ、皆な玆に胚胎す。人性敎育の務めあるもの、深く此の嚴理を鑑んがみずんばある可らず。

兒は先づ親に服從すべし。正理なるが故に服從するにあらず、本然自然の情に於て先づ服從すべし。而して親の行爲正理に適はざることを知るの時と云へども、之に背かんことを欲して之を諫むることなく、之に從はんことを望むの故を以て之を諫むべし。三たび諫むるのみにあらず幾度も之を諫め、亦た何如にともして之を諫止すべし。遂に諫止することを得ざるの時と云へども、其の行ひの結果を蒙むるに於ては、親と共に之を分受するの樂しみを味ふべし。夫れ此の情けなき冷やかなる世の中に生れ出で、心限り親を愛し、亦た心限り親に孝なるは、何如計りの樂しみぞ、人生人を愛するほど樂しきことなし、而して親を愛するほど樂しみの更に樂しきはあらず。酷なる親ありと云ふ人ありと云へど、親の其子を食くみ育てたるとき、何の時か夢にだも之れを惡しと思ひし折あらん、吾人之を思ふときは、身を終る迄で之に仕ふるとも尙あき足ることなし。分別定まり智力熟するの後には、いよ〳〵之に報ひざる可らず、すでに一家を別置したるのちは更にいよ〳〵之を慰さめざる可らず、子の親に對するの務め、何の日か減ずることあるべき。是れ素より務めにはあらず、樂しみあり、義に仍りて爲すにはあらず、情の爲めに爲す也、何の暇まありてか、親に對して義務あり義務なしと辨ずるの念慮を存せん。

ソクラチースの妻ザンチッペは頑婦なりき、其兒に對するの處置亦た穩やかならざりき。左れど、此の聖人は、兒ラムプロクルスに敎へて云へらく、

母は重きを胎み且つ荷ふひ、親からの生命を苦しめ亦た危ふくし、其身躰を營養する養分を多く損失し、十月腹裏に之を温養して、のち非常の苦痛を以て之を產出し、以來之に乳かひ、之を育なひたり。彼女は之が爲めに益するにはあらず、亦當時兒は母に恢かるゝことを悟れるにもあらず、亦た兒の要する所何ものなりやを知れるにもあらず、左れど母は泣く聲によつて之を感じ、之を辨じ、幼な兒に無くてならぬものを次々に與へ、其叫ぶ所に應じ、其好む所を滿たし、夜晝掛念して心些さかも安き時なし、而して之が爲めに何の報ひを受くべきかとは、彼女が夢にも想ひ起さゞる所なりき。左れど母は之を養ふのみにあらず、兒長じて稍物心つけば、父と相談ひて之に學問を敎へ、其一生に尤も益ある所のものを敎へ、之が修身の方向に思ひ煩らひたり。

ラムプロクルス此に至りて、問ふ、

左れど父よ、兒は、母の性あしきに耐へ忍ぶと能わず。

ソクラテースの云はく、

御身よく思ひ見よ、御身が幼けなきとき、其泣く聲と其の頑是なき所行とをもて、夜も晝も何如に多くの苦痛を母に與へたるよ、御身が病ひあるとき何如に多くの憂ひを母に掛けたるよ。御身、母は汝に不信切なりしと思ふや。

兒は答ふ。イナ〳〵父よ、左ることあけん。

然らば思ひ見よ、御身が病めるとき、死ぬる斗りに憂ひ、御身が健かなるとき、神々に祈りたる母は、何とて御身に向ひ性あしからん、母はつねに御身に心限りを爲すなり。御身今ま神に謝すべし、母に孝の足らざりしを許し玉へと祈るべし、然らずば、親に孝ならぬほどのものは善に導びきがたしとて神は御身を棄て玉わん。御身亦た人の言ふ所を聞き愼しむべし、親に不幸なるほどのものは、友人にも不親切に、世の事にも不忠實ならんとて、皆人は御身を棄つべし。御身まづ親に孝なるべし。

夫れ孝は万行の基ひにして、亦た善德の礎あり、之れあくんば、何如に人に信切なりと云ふとも、吾人は信ぜず、何如に道に正しと云ふとも、亦た信ぜず、況んや義理にかたし、恩に報ゆと云ふと雖とも、先づ親に孝ならぬ人の何如に義理と報恩とを知んと云はん近來新しき倫理行われ、多年の風儀根本を動かすと共に、輕薄の兒、辨を理論に寄て、親を敬わぬもの增加す、之れ啻に其人と其親との爲に憂わしきのみならず、

實に國本大道の上に關はりたる總べての深憂あり。而してかゝる輕薄兒が、口を西洋に假つて、新主義の道德如此しといふに至つては、愚亦た太甚しきもの也。吾人先づ其理を破りて、次に其情に敎ゆる所ろ莫る可らず。

西洋道德の經、大率ね聖典より發す、而して聖典の新舊兩約書ともに、「親に孝なれ」の敎へを以て充滿するを見る。万代の基礎、敎則の原始たる、十誡の第五に、

汝の父母を敬まへ、

とあり。マーク、ホプキンスの愛情論に云へらく、此敬まへ(オノア)の一字は、子が親に對する万づの義務を總括し遺こす所ろなし、敬まふものは之に崇尊服從して、嚴そかなる純愛を捧げ、且つ其の幸福喜樂を祈る、而して此子成長して友人となり、國民となるとき、皆な此の敬意を轉じて万行の德本となす、孝は万行の本なり(意譯)と。又箴言に云く、

我が子よ、汝の父の敎をきけ、汝の母の法を棄るとなかれ、これ汝の首の美はしき冠となり、汝の頸の裝飾とならん、(一の八、九)。……常に之を汝の心にむすび、之を汝の頸に佩よ、これは汝のゆく時汝を導びき、汝の寢る時汝をまもり、汝の寤るとき汝と語らん、(六の二十二)。智慧ある子は父の敎訓を聞き戯謔者は懲治をきかず(十三の一)。

ポウロ、亦た敎へて云く、

子なるものよ、爾曹主にありて兩親に從ふべし、是れ正しきとなれば也、爾の父母を敬ふべし約束の誡は之を首めとす。(以弗所書。六の一)

クリストの十字架上に死せんとするや、其死するは万國民を活かすが爲め、其苦しむは天地間に幸はいあらしめんが爲め、其の極大の辱しめを受るは無上榮光を四方に光らさんが爲めなるとを確信確言し、鮮血流れ、苦痛甚だしき時、我れ世に勝てり、我が事成れりと叫ぶ、盖し世上に一點の遺憾なきもの也、但だ架邊に來れる最愛の弟子に向つて、其生母を托し、

今後これ汝が母なり

と遺命せり、之を以て其弟子終生命を承はづて之を養ひけり。此の遺命は即はち基督最後の敎へにして、子が親を思ふべきの天理赫々日月よりも明かなり。何もの丶狡兒ぞ、口を西洋敎に假つて、敢て不義不正の申譯を爲さんとする。日本元來人情にあつきを以て名あり、今に於て「子が親に對する義務」を掲題とし、討論を以て漸やく之を論定せんとするに至つては、墜落幾等ぞ其輩新主義によりて之を論ずと云ふ、誰か知らん新

文明國の民は之を見て、大和民族今や義なしと嘲けらん。之が爲に泣くもの豈に吾儕のみならんや。

一葉落片、亦た秋の來るを示し、杜鵑一聲鳴き過ぐる、尙ほ天下の亂を兆するに足る。近日の出來事小なるに似て、事頗ふる大、志あるもの決して看過すべからざるもの也。今や壯士横行して政黨に定見なく、人々互ひに慢驕して長上を敬するとを忘却す、此を以て英雄を見て崇拜せず、互ひに猜忌妨害す、眞理を見て尊重せず、輕々漫々として万事を徒らに滑了す、上帝を思ふて信ずると能わず、細疑を懷きて哲見とし、漫に誇つて一生を空過す、謙遜、崇敬、の念殆んど枯れ、人皆な猿の智慧と犬の貪ぼりとを以て日を送る。過日の一事是只だ時弊の一噴出に過ぎず、國蛇すでに全地に蟠かまり、毒惡總邊に浸潤し了んぬ、如此き邦家の民は決して安息すべき暇まを有せず、有志同感の人、慷慨努力せずんば、夫れ何如にして此の二千六百年間天福地祝の大帝國を光榮無窮ならしむるとを得ん。

雜録

無學是れ女の貞德乎

貴女之友第七十號を讀侍りて感あり　豊田芙雄子

すべて女子は柔和なる特性を稟けて生れたるが故に其性質にもとつきて養ふときは品あがりて優美閑雅なる女子となりぬべし然るを女子に學ばしむることはいと要なきものと古人の云ひけんを標準となして女子に學問をさせ侍るときは皆女子の性質をそこなふものと云ひなへる人あれど其は又例の偏りたる論らひなるべし凡世の中の人何事を論らふにも皆此弊を免れぬにより學問もなく識もなき人よりそれを聞けばすべてさるべき事なりと思ひ又之に同じ心ならぬ一方よりこれを聞けばやがて理なしと思ふものぞかし。

唯男子は男子の爲すべき學問をなし女子は女子のなすべき學問をなしてこそ世の幸福も多けれさりとて女子にさほど深く學問を修めよと勵ますにはあらねどもかりそめにも此世に生てそおのが職分を完くするまでの事をは望ずば有べからず。

昔日は女子とだにいへばいたく品下たるものとなして女子自らもしか思ひわりしなるべし今は幸にも例の僻論なる事を誰

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

も知りて學問もなく物識らざれば幼童にまで侮られ母とあり妻とありて其道を盡しがたしとは思へり。

女子は素より子を生み育みて敎ふるの職あり隨て家政を整理するも亦自然の職分あり之によりて男子の如く專門を修むるの要なく又その暇もあらじ且身躰の搆造も弱くして多く腦力を費す如きは害あるものなれば唯實際必要の學問をだにあせば殊更に勵まし奬むるにも及ばざるべしさりながら其餘裕ありて身躰も健やかに腦力も強く好んで學を修むるものには誰か之を抑へとゞむるの理あらんや況して家裡を整へ育兒の道等に妨げなきにおいてをや。

又世の女子をもてる父母が其の女子を敎育するに彼の源氏伊勢などのなまめきたる物語書を以て授くるはげに惡しかりなんこれらのものは既に年たけ業成り世路を踏たる婦女にしてみづからの嗜みのため又は慰み草として其文章の趣味を知らんがために見るものぞかしかりそめにも敎科書などに用ふべきものに非ず猶今の品下りたる小說の類とても同じ事なり若草のうら若きいまだ志操も定まらぬ女子には是等の書は讀まさぬかたこそまさり侍らめ。

或人曰西洋の女子は好んで小說をよむと云つれど其著作の善きものとあしきものとを擇びて猥褻にわたるものは讀むと云ふ詞だに耻らひ手にさへ觸れぬといふことは年若き女子は勿論敎育ある女子社會の習慣としてあるあり唯々名家の傑作にいでたる高尙雅訓なるものを讀むを以てたのしみとすることは吾儕も見もし聞もしせし事なりよしや西洋の女子が好んで小說を讀にもせよ我國女子の敎へに弊あるものは讀にも及ばぬ事なれば唯害なき國文を擇びて敎科に充て女子の學問のたすけとなさば事足りなん。

さはあれ將來女子をして嫁ぎては夫の良き友たらしめ子をもちては賢き母たらしむるには暇ある時は古今の書をひもとき其趣味の高尙あるを咀嚼して優美閑雅の思想を養はざれば又何によりてか世にすぐれたる貞淑の婦女を見侍らんや是素より一般の上につきて論ふにはあらねども多くの女子のうちには此心がけも望ましきことなり。

現今女子の敎育論者日々に多くなれるはいと喜ばしきものあれども時としては彼の偏よりたる論らひを聞きて彼の文盲こそ女子の道に相應しと思ひ誤るはいと歎かはしき事なれ。

○

清濁に美源をあつめて　今ま頻迦かいこをやぶる。
ゆくすゑを菊にちぎらば　このくにのかざしともなれ。
行すゑを秋によせなば　くもりなき月とかゝやけ。
岩かたく、松風しづか。　もりたつるめぐみとこしへ。
みどり子は國の命ちの　緒のはじめ。その緒のはじめ
つなげよとかずに加へし　あだならぬ、あゝ神の大恩。

　嚴本善治同令夫人双葉天恩あつく
　令兒をたまはりしと聞きて

明治二十三年十月　　　辱交　山田美妙

○

○見えばる

天知子

世に見えばるてふ事あり、着飾り食ひ飾り住ひ飾り或は調度持ち物など何事にも綺羅を飾りて侈れる者をなべて然いへるとかよ。これ僻事なり。人類いづれか見えばるてふ性質なからん。わきて著しきものは路易十四世の御世、東山殿の時など、寧ろ驕侈の沙汰といふべし。漢學先生が破れたる温袍を着て襟垢をひからかし、山出しの書生が衣腕に至り裾膝に過ぎて肩を聳やかすなど、寧ろ奇癖の沙汰と申すべし。白粉を塗りはえて嫋娜としなす娘子あれば、鬢髪蓬々と梳づらでさばく褓さへ荒々しき女子あり。襷がけに引被れるをはえる女房あれば新調の着物これは寐衣にもと思ましたがと鼻うごめかす細君もあるなり。色白くして見たさは女子の愛らしきお心ざし。色黒くして見たさは強がり男の床しきこゝろね。私しや形袋などには無頓着ですわといふ人、どうやら、似合ひませんかとじれる裝飾家の隣りらし。これら皆見えばりならずして何ぞや。人は身分を能く考へ其身の位置、貧富、場合などに應じて衣食住の度合を計り、相應の事をなすべうものぞ、今日の常ていの事も昔えには見えばりなる事多く、我れに見えばりならざるものも彼には見えばりとなる事あり、貧きにも見えばりあり富にもさる事なきあり、此見えばるてふ事に能く心せずば終には言葉、行ひ、心の上に迄見えばりを及ぼし知らざるの内に變じて詐り者、欺き手となるものなり。原より見えてふ事は惡しきものにはあらで、其身を分限に應じて能く整ふるをいふ事なり、さるを見えば゜る゜といふに至りては恐るべき僻める事となる、是無きをありとし有るを無しとする

が故、人の目人の心を欺き暗ますの種子にして心すべき事なりかし。さりけれど是れ未だ「我れ」を見るの時にして「我れ」を忘れし時こそ眞に見へばらざるの時なり。嚠喨たる笛の音濃霧を破りて澄みたる山氣を嘲り、朧朦たる弦月眠れる空を冷して白波に摧くる時、「我れ」既に無我の鄕に遊びて我れに「我れ」なく。人界に人類なし、此時我れいと淸くして無邪氣に遊びほれたる幼き昔しに比ひつべし、ばるに榮えなく、榮えに榮えなし、ばる忘れはえ忘れ否なばる無しはえ無きの所是れ天眞爛熳の榮え。

我れなしと見ゆる心の見はえこそ
墨畵にかきし松風の音

女禮の精神

小笠原清務

通信女學に女禮の講義を掲ぐるに付、著名の禮家小笠原氏の說を問ふに、左の一文を草し惠送ありぬ、先づ載せて女學生諸子に示す。（編者）。

禮は身を修るを以て本とすれは内其心を正しくして外其躰を直くするにあり心正しく躰直くして後に初めて禮と云ふべし故に心と躰とは影と形と相需て離れざるが如く禮は即修身の實其身躰の上に顯るゝものなり係れは假令進退周旋の式のみに習熟したるとも其根據たる身修まらざるに於ては徒らに虛禮虛飾となりて更に何等の利益もあるべからす然るに修身の敎たる一朝に盡すべきにあらざれば其形に顯はるゝ者を主とし專ら進退の作法を訓習するにあり。

作法を訓習するに當りては上下尊卑の等位を明かにし進退周旋に就きて其躰格を亂らざらしめんが爲めに常に席の上席より退ぞき下より進み上位には斯くせよ下位には斯く有るべしと一々其式法を殊別して敎を設くと雖もそは躰形の屈伸を練熟して進退を自由にし鄙猥の擧動なからんとを欲するのみ其實際に臨みては一偏に拘泥せず其時、所、位、の三ッに應じて上下左右何れの方へなり共滯りなく適宜に進退するを要す兎角に上位へ我背後を向けぬ様に能々注意すべし。

離婚の是非、聖經の教、

碓氷山人

離婚の事に關しては諸家の意見を度々本誌に掲けしは、讀者の知らるゝが如し、今亦アポッスル、リッチヤードと云へる人、チヤプマン孃が離婚を不可とするの說を討駁せるものを見たり、其主意とする所は使徒ポーロは確かに離婚の止むべからざるを數へたりと云ふにあり、是を議論の根底となす、左に揭くるは即ち其意見なり

基督敎を信する者、不信徒と結婚せる事につき、使徒ポーロ明白なる判決を下して其離婚に關する意見を述べたり、是實

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に輕易に看過すべき點に非ず、人之を一見して或は奇怪の説となさん、されど實に然らず、乞ふポーロの云へる所を聞け、始めに彼曰く若良人不信者にして信者なる人と婚し、永く伴はんと欲せば其望みの如くすべし、夫妻信する所同しからずと云へども其結婚の盟約は固からざるに非ず、されど若此に一の伉儷あり、不信徒なる者、信者と伴ふを好まずと云はゞ如何、夫にせよ亦妻君にせよ、不信者に捨てらるゝ事ありとせば如何、是一の疑問と云ふべし、ポーロ斯る場合に於て判決を下して曰く「不信者にして去らば其意に任せて去らしめよ兄弟姉妹(當時の信者を云ふ)は斯る境遇にありて離婚すべからずと云ふの責なし」と、是豈明白の判斷に非ずや、此點につきて某監督及び博士ウヲルヅウオルス註して曰く信者は其妻と離る能はずと云へども若し妻にして良人に對し、不義の行ひある時は其良人たる者再婚するを得べしと、故に羅馬敎徒と云へども斯る場合に於て離婚すべからずと云はず、若し夫妻等しく信者にして敎會に屬する者ならんには破るべからざる盟約を爲す事もあらん、されど夫若くは妻にして敎會外の人なりとせば斯る盟約なし、故に使徒公然不義の夫若くは妻と離婚する事を許容せり、只に是のみならず、不信者にして不正、邪惡の行ある場合に於ては時と所に關せず、離婚するも可なりとの敎を垂るゝものなりポーロ云はずや(再び記す)兄弟姉妹よ斯る場合に於て離婚すべからずと云ふ責なし、不義の人は離婚を永續せよとの要求をなす能はざるものなり云々」と。

和歌の浦波

池袋清風大人批

菫　竹内うめ子

故郷
、加茂川の汀の柳うちけぶり菫の床に春雨ぞふる

評故郷の春雨にすべし

同　青木まさ子

、事しげき學びのまとをたちいでゝ春(の)野にしばし菫つみつゝ（むかうれしき）

同　高原うめ子

馬子たに
、心さへ今は通はぬ故郷の垣ねのすみれ今か（さかりなる）さくらん

評下句を見れは心の通ひたるに非すや又今ふたゝひ出てたり

同　高原こう子

春の野はすゞなかほりて
、菜の花の匂ひの間に紫の色も（なつ）ゆかしく菫さくなり

學問　松本いさ子

、異國の光をとわに渡り來て學ひの園もにきはひにけり（ここなる花をうゑしより）

評第二句よく分らす

同　　松本亦太郎

、こきはみなき（はても）學びの海に漂ひて（出てにけり）いつこをあてに我はこくらん（身の港なる）

川落花　　竹内梅子

○夕月のかけさへうつる（おぼろに匂ふ）山淸水（川に）涙かと見れは（えて）花のちるなり（櫻哉）

評影さへと云ひて此所何の詮もなしそはかくいふなら淸水の淸き景色を出して朧月夜のさま見へす又淸水さいひてはいさ小さき泉にて白浪など たつ所にはあらす斧正して一變し靄然たる春夕の景出つ

折にふれて

、名にしおふ富士見の市に來て見れは朝日まはゆく（かゞやく）峯に輝く（の白雪）

落花不語空謝樹　　みさを

、入相の聲のみすなる夕まくれ山路靜かに（陰の梢はなれて）ちる櫻哉

柳色雨中深

春雨のしつくにぬるゝ（れし）青柳のみとりふかくもなれる頃哉

雲雀　　高原孝子

、空遠く（のどかなる）霞の內になのひはり野邊の若草（すみれの床もわすれはてけん）あとに見すてゝ

、大方の梢の鳥を下に見て雲井はるかになくひはりかな　　松本亦太郎

、長閑にも宮打かすむ春の日に時を得かほにたつひはりかな　　高原梅子

、夕雲雀すみれの床やしめつらんなく音聞えすなりにける哉　　みさを

賊子鳥音に感ず　　しのぶ

人の心の底に優しき琴の糸かゝる。物ありて之に觸るれば、淸らかなる音を發し、響き全身に徹す、此に於てか人たましひの根元より動き、大ひに感激せずと云ふとなし。博物學者アウヅボンの言ふ所に據れば、むかしフロリダのあたりにさまよひたる慘忍至極の盜人ありけり、心ねじけ情けくだけて、あはれなど云ふとを塵芥とも思はず、たゞ貪利あくとを知らずして半生を無慘冷酷の仕業にて送りける。或る時、濱邊の樹木しげりたる下に休らひ、うつら〳〵として聞くとも無く耳を欹だて、聽けば、波の打よする音すさまじき間に、鳩の最も哀れに鳴く聲きこゆ。哀泣するときは子を失なひしが如く、妻にはなれたる如く、亦まさに餓死せんとするものに似たり。更に長鳴するときは、怨むるか如く、憤ほるが如く、又幾万の亡靈に代りて遺恨を天地に叫び訴ふるものゝ如し。更に聲すまして高音を發つときは、玲瓏として玉を振ふが如く、青天に向ひて贊美するが如く、俗子の腸わたを刺し、聖靈の福音を宣傳するに似たり。盜人、恍惚として我を忘れ、良心澄み濟まりて天地の嚴そかなるに動き、飜然罪を悔ひて善人となれりけるとぞ。

岡山孤兒院を訪ふの記

農科大學生　八木和一郎

誰か慈善家傑ジヨウジ、ミウレル氏の著書及び演説を見聞して感奮せざるものあるべき、而して吾人が岡山孤兒院に感ずる所も亦之に類す。今ま八木和一郎氏該院を訪ふの記事を左に掲げ、世の情けあり信仰あるの人に示す、（編　者）。

岡山孤兒院の記事纔かに昨年十月九日發兌の基督教新聞に在り。故に予は只自から見聞せし所と其所感とを記述せんと欲す。同院は岡山市門田屋敷なる一寺院を以て假用に充て、院長石井十次兄の一族及び孤兒盡く一堂の内に起臥す。予が同院を見舞ひしは前後三回なりし、歸京の節實に六十八人の孤兒ありき。此中多數は市内小學校に通學し、幼年者は院内に於て教訓を受く。予は此多くの孤兒を

　而のあたり見て感涙す

六十八人の孤兒少からざるにあらず、然に其遊戯するや、長幼秩序あり起居態度に叶ると、他の兒群に於て見る能ざる所なり。諸兄姉潜心撫育の功は實に予をして感泣歎謝せしめたり。孤兒院設立の擧に主幹たりしは勿論石井兄なりし、然れども熱心なる炭谷小梅姉の助力なくんば或は今日の盛況に至らざりしなるべし。

　石井十次兄

は日向の人なり、笈を岡山醫學校に負ふ、兄素と天主教を奉ず、或日偶々岡山教會（組合）に至り祈禱會に列す。其祈禱の狀質に儀文に流れず、眞心を以て天父に哀求感謝するの切なるに感じ、時の牧師金森通倫氏に就き、新教の教理を研究して飜然岡山教會に轉ず。兄天資愛憐の情に富む。其醫學校に在るの日、一友郷里より來り身を兄に託す、兄其友の願事否むに堪ず、遂に己が學資の幾分を割き、其友毎日の食費に充て、兄自から夜中笛を吹き按摩を營み以て己の食費を得たり其每夜之が爲に市中に出んとするや、必らず先づ炭谷姉を訪ひ祈禱を與にして別るゝを常とせり。而して客を得て之を揉むの間片時も傳道の念を絶ちしとなく、賃錢の多少に係らず客にして若し基督教の幾分を覺るに至らざれば止まず。之に由て人を導き善に移らしめしと幾人なるを知らずと云ふ。某氏兄が此狀を聞き、其困みを救はんとて、自家に眠食せんとを勸む、然れども兄辭して曰く、是れ予が本意にあらずと。再三之を勸むれども應ぜず。炭谷姉兄に勸め曰く、行け、兄今某氏の招に應じて行く、是れ傳道の好機なり、

　兄夫れ天使となりて行けと

兄之を聞き、遂に某氏の居に起臥す。某氏大に兄の人物に感

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ず暫にして兄腦を病み某氏の居を辭せんとして曰く、予は他に寄食するを好まず、神若し他日與ふるに時と資とを以てするあらば再び就學するも、今は一旦廢學せんと。去て上阿知に療養す。此時初て、

乞食兒を拾ひ

之を養育す、是れ即ち今の岡山孤兒院の胚子なりとす。同地に在るの際、屢々醫業の念を絶ち、專ら孤兒の爲に盡さんと企てり、後病癒へ岡山に歸るに及び、廢學の念彌增長す、然れど諸兄姉等の爲めに遮られ、未だ果さず、一日石井婦人狂奔炭谷姉に來り云く、良人多年積藏せし

書籍筆記を盡く火中に投

じたりと。姉行て兄に語り曰く、兄宜しく廢學すべし、兄の決心にして已に茲に至る、何ぞ之を停めんや、我今より一臂の力を添へんと、爾來協心同力、大に孤兒の爲めに盡し、以て今日に至れり、人或は兄の此擧却て神の榮光を瀆す無やを憂ふ、然れども世人にして兄の擧を聞き感歎せざるもの無し。兄は已れ食ずして孤兒に食せ、已れに着ずして孤兒に着せ、他人の憫狀を見ては已を省みずして施す、家に餘財ありて之をなす或は得べし、兄家に財を積まず、蠹くひ銹くさり盜穿ちて竊ざる所の天に財を蓄ふるのみ。兄常に有する所の衣服二枚を超へず、新に衣を得るも人の着る能はさるあれば之を看過するに忍びず、直に脱で之に與ふ、

或冬の日寒威猛烈

孤兒愈々增加し、爲めに蒲團缺乏す。此に於て兄は其蓐を密かに孤兒に與へ、自ら横臥し、唯机に倚りて夜を徹し、敢て之を人に告げず。斯くする事數夕ありし。炊婦覺りて炭谷姉に告ぐ、姉因て兄を招き、自家の蒲團を持歸らんとを勸む。兄固辭す、姉曰く然らば我亦安然暖眠せざるべしと。兄止むを得ずして姉の與ふる所を受たり。此の如きと屢々なりしと云ふ。予は此談を聞きし時、感涙に胸塞がり殆んど顏面を高むる能はざりし。石井兄予に語り曰く、聞く、

鴻儒熊澤蕃山

は旭川の水流、年に月に涸るゝを憂へ、樹を川源に植たりと。予が今孤兒を此院に樹ると、彌多ければ、天父の惠雨彌下る。初め此院を起し、豫約寄附の法に依り、僅少の孤兒を養育せるや、屢々窮乏を告げしが、一朝組織を變じ、臨時寄附の法を採り、神の與へ玉はざる時には衣食せざるも可なりとの決心をなしたるより、益々多の孤兒を養育するも未だ甞て

衣食に缺乏を告げしとなし、而して予は万事天父に一任し敢て人に依賴せず、舊約書中常に予が好みて誦する所の句あり、汝等鼻より息のでいりする人に倚ることを止めよ斯るものは何ぞかぞうるに足らん(賽二〇廿二)此一節は實に予をして人に依賴せずして天父に倚るの念を起さしむと。兄の決心誠に此の如し、尙ほ同院に關し予が記述せんとする所頗る多し、然れども此に閣筆す、願くは幸に推知せられよ。

聞く此頃同院八十餘名の孤兒ありと。記臆せよ、後日拔山蓋世の英雄必らず此より輩出せんことを、刮目して俟つべきなり。兄の此擧質に我國未開の美擧にして、第二のジョージミューラルは、兄を措て誰ぞ。嗚呼義俠を以て自任せる大八洲國の同胞にして、何ぞ奮躍以て兄を助け同感同情を孤兒に表せざる。

文學思想の盛衰、ホームの影響(下)

雲峯生

殊に母の感化を必要とす

父たるもの必らず外に務むるの任あり、故に直接兒女の敎育に盡す能はず、母は即ち然らず、赤兒匍匐して膝にすがり、纎手を伸べて乳を求むる時より、常に兒女の敎育を司る、之れ母の敎ふる所、導く所が終生其兒女の腦裏に深染する所以なりとす、手足漸く長じ、東西を辨する時より母の舌端に現る丶深愛信實の敎育は身を終ふる迄記臆を去らず、他日人となり、風あれ、波騷ぐうき世の旅路をたどる時、折にふれ、事にあたりて其愛情の想像に浮ぶ事幾度なるかを知らず、母の撫育愛養は眞に貴重なる哉

ウ井リアム、ジョーンスの母

ジョーンスの母の如きは眞に賢婦たり、夙に子を養育するの策を究め、世間幾多の係累を逃脫し、一子を携へて適宜の所に居を卜しぬ、其敎育の方法は好奇の念を起さしめ、此機に乘して讀書を務めしむるにありき、幼兒問へば答へて云へり、「書物を繙け、蓋し知る所あらん」と、是ジョーンスが幼少より讀書勉學の美習を母に養はれし所以にして亦異日大家となりし原由なりとす。獨逸の哲人カント常に好んで云へり、我が確乎不拔の道念義心を養成するは偏へに母の高操美德に原づくと。ボルンスはスコットランドの歌曲を母に學びて詩想を養いけるとぞ。エッヂウヲルスの母夙く彼の性質を悟りよく敎道せり、母病床にあり、老症衰枯の餘、將に氣息終らんとする時、エッヂウヲルス驚き馳せて見舞ふ、苦しげなる内、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

絶えなんとする聲の下より彼が將來に訓戒を垂れたり其一語永く影響して幸ならしむと、彼常に自白せり。亦

ナポレヲン云はずや

余が大呼疾聲して歐洲全地を震動せしむるの日あるは偏へに幼時母の敎育に是基するものあり、赤兒が將來に善事を爲すも、惡業を企つるも只母の敎育如何にあるのみと。眞に千金を値するの格言といふべし。兒女一生の好尙は實に母の導く所によつて定るものなり。有名ある考古學者某母の爲めに好古心を養はる、其父斯る敎育を好まず、時々其發達を妨げしが母の注意怠る所なかりし爲め遂によく考古學者の名を爲せり、ホームの影響多き中に別けて母の感化は著しく且貴重なるものにこそ。

一人の秀才一家を動かす

秀才一人家にあり、一種の氣風溢れ、其才能蔓延して一家悉く化せらる、エッヂウテルスの女云へる事あり「妾の父上が活潑々地に事を處せらるゝ故活氣内に滿ち、兄弟姉妹自ら相和し、相活す、常に相助け、相勵みて勉むる故皆快く日を送る」と。エンヴェリンよく一家を化導せり、其子はラッピンの花園と云へる詩を譯し、妻君は彼が好める美術に上達せりハラーの家屋は學術と美術に献ぜし殿堂に似て、其崇拜者は彼が家族なりき、ハラーが著述せし所にして彼の家族相集り、分擔して講究せるものあり、或は記述し、或は畫き、或は草木の標本を求むる抔各其分に任して勉めたり、爲めに妻君も、子女も共に力を盡し、彼を助けたり、畫工ステラ彼の家族をして彼が畫きし所を摸寫せしめたり、彼の姪ありし一少女之を樂しみとなし、側らに肅坐せり、其女も亦斯の如し、

エリサベスハミルトン女史の著は全く兄の感化によりて成れりと聞く。

代々相續で斯る例あり

秀才の人家内にあつて一族を精勵せしむる事代々相つぐ事あり、父一書を著さんとす、未だ成功せずして世を終ふ、其子若くは親戚の人之を次で執筆する事あり。ズヰンガーと云へる人あり、其家世々學問の道衰へず、子々孫々父祖の學を講述せりとぞ。シヲドール千六百九十七年に書を著はす、千七百四十四年に至り、其子更に之を布衍して公にせり、時人見て大に稱讚せり、眼を轉じて文學歷史の著述を見るも亦著るしき例あり、前に云へるシヲドール嘗て其義父の著筆せる戯曲を次ぎ、以て筆を振へり、其子亦之をうけて書き加へたり

伊國の史家の如きは七代迄打つゞきて秀才を遺傳せることあり、史家ステフェンに於ても亦斯の例を見る、其他文學者の內にてワルトン、ボルテー等の一族の如き、ミルトンの如き著しき例と云ふべし。

災變は人材を殺す

憐れなる事多き中に、稀代の才學を抱き、爲すあるの資氣を有し、一切災變に遇ふて失望解體する人こそ最もあはれなれ、クヰンチリアン甞て名作を始む、蓋し其愛子をして文學者たらしめんと欲し、畢生の精神を盡せり、嗚呼悲むべし、作半ばにして大災に遇へり、即ち其妻君を失ひ、次で其子の逝ける事なり、是彼が氣を失し、腸を斷つの苦を來せし所以なり、彼悲哀の極、嘆息の餘り云つて曰く余の富、余の著述、余が終生勞苦して得たる所、皆余の所有にあらず、而して今余の手に殘れり、余は今良人たるの悲哀、父たるの悲哀、學者たるの悲哀を一身に集むと。ジョンソン斯る不幸に遇へる者を見て彼は社會の關係を斷たれ、遠流の身となり、其家には目見えず、足あへ、零落せる人を宿すが如しと云へり、蓋し故あるの語なり、何とあれば人は社會的の動物なり、其關係を斷つ時は既に人たるの資格を欠くものと云ふも不可なければなり、是亦ホームの影響の一なり、世の文學に志すもの、宜しく此に述べたる影響を顧みる所あるべし。（をはり）

因に記す、余が此稿某文學者の書により、一節を摘譯せしに過ぎず、尙續稿を起草せんとすれども長文に失するを以て此に筆を擱く、他日亦更めて續稿を揭ぐる事あるべし。

女學校の日課多きに過ぐとは眞耶

米國に「貧女」と題する一雜誌あり、甞て女學校日課の多き事を痛嘆して、一文を揭げり、某高等女學校の教員生徒より之を贊成して一文を同雜誌に寄せぬ、左に記するは是なり

香軒生記るす

女學校の日課多きに過ぐるを論ずる項中最も妾の心を痛めしものは組織法宜しきを得ずと云ふの點あり、思ふに各地の女學校生徒數名より各自日々の課程時間表を出さんには忽ち其日課の多少如何を知り得べし、乞ふ妾の日課時間表を左に示さん、余白を惠與し玉はば幸ひ之に如くなし

○午前五時に起床し○七時三十分迄前日教師の講話を淸書す○八時十五分迄音樂を學ぶ○八時十五分に禮拜と朝餐を爲す○八時四十五分に日課の用意を爲す○九時に英國史の課業あり一日八頁若くは九頁を學ぶ○十時に音樂の稽古あり○十一時に數學の課始まる○十二時より一時三十分まで獨逸學を學ぶ○一時三十分より二時まで中食を爲す○二時に佛學の課あり○三時に讚美歌の稽古あり○四時より五時まで復習○五時より五時三十分までを遊步時間とす○五時より六時まで夕食を爲す○六時より八時まで音樂復習をなす

妾二十歲に至るまで凡そ八年の間斯くして學び來ぬ、只一週日に二度一時間の散步を爲せるのみ、學年進むに從つて妾の日課增加し、佛獨の課業も多くなれりされど多年の間斯くして學び來りし故其時間割も諳記するに至れり、妾の兩親は音

樂と歌曲を殊によく學ぶべき樣敎へ玉へり、其他佛學、獨逸學、踏舞、繪畫等の課程一も殘らず修めけり、敎師諸君もはなはだ勤めて妾等學生を導き給へり、生徒百二十八、九人の英語敎師、三人の佛學敎師、にて一校を爲せり、妾等皆爲すべき所を爲し、敎師等よく助けり、然ど人の親たるもの其の子をして悉く他の拔群英才の女學生と共に學ばしめんとせば或ひは其の腦力よく日課に堪へぬ者もあらん、試みに妾等の敎師を見よ、彼等、凡ての學生に音樂、歌曲、繪畫、佛學、獨逸學、等を敎授す、彼等は多くの日課を與ふるに依てよく生徒に學ばしむるを得るを迷想す、學生は學課の多きに堪へずとて其兩親之を退校せしむるに至る、學びし所を問へば多くして若精細に研究せんには二年を要する程の課業を一年に修めたりといふ、妾等此に於て見る一年にして二年の學課を終らんとするが如きは組織法の誤れるものなるを、妾の見る所を以てすれば十人に十人其心を異にするが故に敎師受持の人數を減じ、生徒各自其好む所を樂しく修めしむるを最良の敎育法と信ず、多くの生徒を機械の如くに見て日々同じ日課を同じ時間に修めしむるは不可なり、今日の所にては實に日課多きに過るが故に敎師も充分に說明して生徒に了解せしむるを得ず、是大ひなる弊害の來る所以とす、今の組織法宜しきを得ずとは眞に適切の言なりとす。

稀世の慈善家クラ、バートン女史

碓氷山人

○佛獨の大戰

孃は只海内に在つて慈善の事業を爲せしに止らず、佛獨戰端を開くの時等しく美擧を爲せり、是歐國全地の人の熟知して其所行を稱讃して止まざる所なり、其頃ベードンにグランド、ダッチェスと云へる婦人ありき、亦是一個の大慈善者なり、バートン孃の擧を助け、戰者の爲めに病院を設けたり、孃此時始めて赤十字社なるもののあるを知り、之に加はりけり、孃は戰後直ちにストラスボルグ地方にて貧民の救濟を命ぜられたり、次でパリスに送られ、亦貧民救助に働きぬ、後獨國に召され、鐵十字社に奉仕せり、

○功成つて故山に歸る

孃よく海外に美擧を遂げ、米國に歸つて赤十字社を組織せり、社員、孃を推して其社長となす、もとより適任なり、元來赤十字社なるものは歐洲に起りし時より、戰爭若くは天災地變のある所に到り、遭難者を救濟介抱せんとするにあり、今米

國に於て設くる所の目的も亦然り、敵味方の別を問はず、彼我の戰陣に往來して戰士を救ふにあり、千八百八十三年、マサチユーセッツの知事バットラー、孃を擧げてシェルボルンの改良獄牢の監督に任せり、孃喜んで此職に當り、一は以て知事の好意に報じ、一は獄屋改良に熱心ある幾多慈善家の希望に背かざらんを期し、只管事務に鞅掌せり、孃亦よく責を盡しければ人々大ひに感服し、嘗て男子を任用せし所の會計、諸務の事をも兼ね任ずるに至れり、其名望の高き知るべきのみ、

天災地異の時

千八百八十四年ミスシッピーの大河水溢る、バートン孃及び其一黨はヲハヨ州に送られ、以て窮困の者を救へり、合衆國政府は孃に命して「赤十字社の由來」と題して著書を爲さしめんとす、是孃が爲めに非常の光榮ある事とす、ミシガンに大火あり、無數の財貨死灰となりし時、テキサスに狂風捲き、地荒れ、家倒れし時、チャーレスタウン大土震ひ、地裂物倒し時、亦ヂョンスタウン未曾有の大災起りし時、クラ、バートン孃と其志を同くする婦人が衆に先じて災害の地に至らぬ事なかりき、人々よく孃等が深心を知り、好んで其施濟を崇る、時を問はず、所を擇ばず、火災にまれ、惡疫にまれ、洪水にまれ、苟も命を殞し、人を苦しむるもの起るあれば直ちに到つて赤十字社の標旗を飜へす、其心亦至れり、

○孃の一生

公明正大の心事を抱持し、利己の心を絶ち、慈善の大業に身を委ねける、獻心犧牲の一生は實に世界開闢の後顯はれし許多慈善家の歷史に一大記念碑を銘するものと云ふべし、日月轉じ、乾坤動く、孃遂に世を去らん、されど其生涯は長く世の人の記臆を去らじ、後日人を奮起せしむる事限りあらじ、サムマー氏孃を評して云へる事あり、曰く、

孃は大政治家の英才を有し、大將が士卒を威服せしむるの器量を有し、而して亦婦人の心意と手足を有す。

きよめぬ庭

秋の木の葉ちりかゝり、庭面あまりと思はれて、ちと清めかゝりぬ。題にふさはしからねばとて、此度は零す、次號に面白きを載すべし。(編者白)。

小説

小公子

第三回(中)　若松しづ子

ハ氏は尙暫く躊躇して、エロル夫人の樣子を窺ひ、さて申升に、

愚老がドリンコート城を出立致す前、老侯にお眼通り致して、取斗らひ方に付き種々御指圖を蒙りましたが、御嫡孫に於て此度英國へ御移住相成と、幷に初對面のことなども成る可く歡んで御待うけ相成る樣、注意いたせといふ仰で御座り升た、それ故、御一身上大變動の起つたに付ては、幼者の悦ぶものは何に限らず整へて差上る樣、又お望のものは何に依らず御滿足ある樣致して、總べて老侯の賜ぞと申上る筈に御座り升れば、貧民を補助するなどのことは或は老侯の御意中に無かつたとは存升れど、是とてフォントルロイ殿の御懇望とあれば、是非ないと、矢張り、御滿足ある樣取斗らひ申さずは御勘氣を蒙るは必定で御座り升う。

此時にも老侯の言葉のまゝは憚つて述ませんかつた。老侯がセドリックの望のものを買與へよ、又金子もとらせよと命ぜられたは、全く純粋な好意より出たものではなく、皆な爲にする處が有つたのでしたから、若しセドリックにして優愛、溫和なる性質を有つて居りませんかつたならば、多少人となりを害された事でせう。セドリックの母も亦極めて溫柔なたちでしたから、惡意が有りしなどとは努め推さず、只子供を悉く失ふた心淋しい、不幸な考へがセデーに優しくして、其愛と信用を得やうとして居ることゝ計り思ひ、今セデーが彼の貧困な母を救ひ助けるとか出來るとは、何よりのことと喜び、自分の息子に向いて來た不思議な好運が、人に慈善を施す手術になるとは、誠に幸福なこととおもひ、今しも其奇麗な、若々敷顔ばせに嬉しさがホンノリと櫻色に顯はれて居り升た。

それは〳〵侯爵さまの御深切誠に有がたう御座り升。セデーもさぞマア悦ぶことで御座りませう。ブリヂェットと申す其女と、つれあひは、大層セデーの氣に入りて御座りまして、一躰誠に實直な好人たちなので御座り升。私も始終モット何か致して遣り度と思つて居り升が、兎角そうもなりませんで。其つれあいと申は、平常丈夫な時は誠に實貞に働く方で御座り升が、久敷間煩つて居り升て、高價な藥や、溫かい着物、又滋養物などもなくてならぬので、大層困難をして居るのです。兩人とも頂戴したものを麁末にいたすとは必ず御座り升まい。

と申し升た。ハ氏は此時痩た手を胸のカクシへ入れて、大きな紙入を取出し升たが、其鋭敏な容貌には、何とも一寸勘定のつかぬおもいれが現はれて居り升た。其實ハ氏は心の中にフォントルロイ殿が先第一に處望されたとの趣は斯々と老侯へ言

上致したら、何と仰せらるゝだらう、生來癇癖ある、俗才に長けた、氣隨な老侯のおもはくは、如何あらうかと不審を抱いたのでした。今エロ――ル夫人に向ひ、

まだ御承知にはなり升まいが、ドリンコ――ト侯爵は、至極御寛裕で、フォントルロ――イ殿の御處望とあらば、多少御氣隨な向も、決して躊躇せず、御滿足ある樣取斗ふて差支は御座りません。却て老侯のお氣に叶ふとゆえ、只今フォントルロ――イ殿をおめし寄せ下さらば差むき五ポンド丈お話しの貧民救助としてお渡し申すで御座りましやう。

と聞く、エロ――ル夫人は嬉しげに、

五ポンドと申せば廿五圓に當り升、兩人にとつては大金で御座り升。思ひ掛ないとて、私まで夢の樣に存られます。

氏は例の冷々とした笑顔になりて、

イヤ、御子息の御生涯……は既に大變動が有つたので、今後大した權力をお握りなさるとで御居る。

そう仰つしやればホンニそうで御居り升。まだあの通り頑是ない子で……誠に頑是ないので御居り升に私がマアなんとして其權力をよく用ゐ升やう敎へたら宜しう御座りませう、私は子供の爲に誠に氣遣はしく御座り升。アノ樣にあどけないので御座り升もの！

流石、ハ――氏の冷淡、世才的の心も夫人の茶勝な眼に溢れた優愛と氣遣はしげの眼附とに動かされた躰で、又少し咽喉を拂ひ、

イヤ、今朝フォントルロ――イ殿にお眼通りして、お話いたしたとより愚考いたし升るに、ドリンコ――ト侯爵位に登らるゝ上も人を忘れて、己の爲に謀るなどゝいふお擧動は夢あるまいかと存升。只今はまだ御幼年では在らせられ升が、決して御心配には及ぶまいかと愚考いたし升。

批評

○谷間の姬百合　第四卷（大尾）。　撫象子

之にて咲そろひぬ、香はしきと一きはの心地す。此度は、綠いよく／＼末期に迫りて秋の木の葉よりもろく散り、瑠璃さらに光を發ちて餘慶三代に渡るのさま、元著者が風致に心を凝て、用意苦心したるの跡歷々として現はる。實に目出度趣向にして、陛下が特に之を愛でさせ玉ふや、其理わり淺からず、吾人かくとうやく／＼しく思ひ測り奉まつる。

一と通り讀み過ぐし、直に眼に觸るゝ欠點は、譯文の鍛練未だ足らずして、所々に未熟の句調現はれ、寧ろ文意の通ぜざると

を感ずるの多きに在り。例すれば、第百六十一頁に、
稍や氣強くして何角と世話などしてあるは手繰亮三一人のみ
とある、此は恐らく若し其人ありとせば亮三一人のみと言ふの文意ならんか、然らずしては此所に亮三を見るの關はりなし。又た、第四十三回の初め、別離見納めの條りに、
入江伯は暫し他の人なしに別れを告げたくとて
の類、青萍居士會話躰の淡泊なる狀は明らかに見ゆれど、日本文法に當てゝは何如にも無頓着なりと云ふの外なし。されど、大躰譯文の手ぎは十二分にして、素より凡庸文士の及ぶ所にあらず、殊に文章の尤とも秀でたる所は、半藏が懺悔の書置なり、人の死なんとするとき言ふ所ろ善しとは云へど、かゝる文章を書殘したらん半藏其人の如きは、亦是れ非凡の大丈夫と云ふべし、谷間の姫百合前后四十五回を通じ、未だ此手紙の如く能く人情を穿ち哲理にかなひ而も寸分の申樣なき者あらず、讀む人殊に心して之を再讀すべし。次に、文字の佳なるは、琉璃及び綠が代る〲半藏に合見する夜の景色の敍事にて、
(前)時しも夜は暗にて大空には叢雲行き交ひ風は木々の梢く々に觸れ怒るが如く號ぶと思へば又時々は聲低くして咽ぶが如く微かに聞へぬ。
(后)夜を横ぎりつか〲と歩みを急ぎ行くほどに木々の梢は夜風に鳴り飛散る木の葉は足邊に舞ひ月にさしたる物影は自づと怪しき姿に見え物すごきと類ひなし。
の如き、流讀し來つて此に達すれば、文字淡如として而も千斤の重みあるを覺へ、譯者の筆の老練なることを悟る。
譯本を評するには文章の外か言ふべき所あらず、更に一事の感服する所ろ及び承知しがたき所ろを擧れば、譯者がラーブ(戀愛)の情を最とも清く正しく譯出し、此の不潔の連感に富める日本通俗の文字を、甚はだ潔ぎよく使用せられたるの手ぎはにあり、例せば、
私の命は其戀で今まで持てゝ居ります戀は私の命ちで私に取りても此外には何の樂も願もありませぬ私に此戀を忘れよと云ふのは骨を拔て生きて居よと云はるゝも同樣です。
(五十四頁)。
あなたも兼ての約束をお取消下さいあなたは實に男一人の腸を寸々にしました一生を形なしにしました(八十三頁)。
の如き、英語にては "You have ruined my life" など云ふ極めて適當の文字あれど、日本の男子が女性に戀愛するはホンノ皮肉の外にて深く魂(ソウル)より愛するなどの事なく、隨

つてかゝる文字を最も嚴粛に使用したる遺傳少なし、偶ま之を使用すれば演劇の口説風に陷いるとあれど、譯者の筆は十分に其意想を現はし得たり。

惜しき哉、譯者の筆「神」と云ふ思想に清潔ならず、所々に神に祈る、神に謝す、神しろしめす、などの文字あり元本には定めし非常の重みあるべく、又之を口にせし人物が其當時の感想とは非常の關わり合ある所ろなるべけれど、譯者が之を「神」と書流すときは、然がら八百万の神々、もしくは守り神、氏神などを祈禱すと云ふ類ひに聞え、毫も嚴そかなる感念を起し來らず、之れ實に殘り惜しきと也。

元著者に對するの不平を譯書の前に敢て告白すとすれば、此書人情を穿つと、疎にして、結構に力を用ひ過し、キャラクター（人々氣質）を明らかに描寫するとを得ずして、善惡應報の配劑に思ひ屈すと評定せざるを得ず。若し昔の春枝孃即はち揣地夫人來り賀して虎と墓前に仲直り爲し、近くに婚儀あらんと云ふ所にて筆を收めなば、余情むしろ極りなきものを、くど〳〵しき長談議に殘る一章を用ひてあたら文趣を損ふと淺少にあらず。

幼時田舍源氏を讀みて知らず〳〵其當時貴族的の習氣に染みたるが、此書讀了の後數日亦た何にとなく其類ひの心地したり。讀む人もし、英國貴族の閑雅優遊してたゞ戀愛の事に日月を消するの狀に感化せらるゝとなく、しかとしたる覺悟を以て此を一讀し去ば、益する所凡庸小說を讀の類にはあらじ、吾人は女性が此小說を讀とを推薦するに猶豫せざるもの也。

○倫理學教科書　卷之

推理子

近頃ろ同じき元本を用ひて倫理教科書を譯成するもの三つあり、右に揭ぐる者は其一つにして文學士岡田良平氏が、佛人ポール、ジャーネー氏の倫理要論を重譯するもの也。譯者云はく、予は學校の德育は必ずしも宗教に依るを要せずと信ずと、又云はく、ジャーネー氏は宗教的道德學者にして說く所ろ宗教に偏す故に予は之を削除すと。左れど、宗教の後楯を拔取つてジャーネー氏の道德論を味わはんとするは、譬ひを去つて香油を用ひ、精氣を取て精液を使ふものに似たり、然あらんには初めより、コムト一流の倫理學にても譯出するの優れるには如かじ。之が爲めに、此の譯書は元本には切要の部分となれる宗教上の精神、及び註解を省畧し、たゞ無味索々たる骨骸を露出したる所ろ頗ふる多し、何如にも殘り惜しきと也。但し文章は冗長ならずして、能く文意を示すに足る。

○女新聞

廢刊するとゝなりぬ。今ま申すは失せにし子の器量を語るに似たれど、友人を弔ふの情けもて、九月三十日刊、第百四十四號、即はち最終の號を許し置くべし。小說は、昔し風にて畫は小新聞の畫の如く、其他は、大學の演說筆記、もしくは他に載りたるもの、を多く轉載す。女報は頗ぶる行屆き、主なる府下の新聞雜誌に出でたるは大抵網羅せらる。廣告至つて多く、女學の雜誌新聞中かく廣告の夥しきは無かりき。

○つぼみ

體裁改まりて小さく成れり、社說には女子專門學校を設くるの必要を說けり。

寄送批評

○靑年會──夜學校

可愛子

靑年會──夜學校を題し、國民新聞記者は、去十月五日の紙上に於て、有益なる議論をせられたり、余輩三年以前、地方にありて、既に記者の論する所の如き事を實行したるものなり、頗る功能あり、頗る勢力あるものなり、試驗して見ば能く其

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

然るを知るを得ん、唯余輩が玆に注意を促す所は、其會の率先者たるものなり、慓悍なる、放逸なる良家の子弟、之を率ゆると頗る難し、之を善導すると頗る難し、故に其率先者たるものは、仁愛を持たざるべからず、威厳を失ふべからず、若し此仁愛と威厳とを好き程に折衷し、調和して用ゆるものは、一個の小英雄なり、以て其會の會長となすに足るべし。

○讀下宿屋改良論

河内國安宿部郡國分村　絢堂學人

拜呈女學雜誌(二三〇)號より上中下三篇にわたる下宿屋の情態弊風及其改良策に就き一章一句切實に御論述相成候段誠に感服仕候殊に學人の如き從來東都遊學中下宿屋の强迫殘酷なる手段の下に窘しめられ候者には其感銘も一層甚しく、御案出に相成候改良策には徹頭徹尾贊成仕候就ては此任に當る者は其 Temper も Disposition も共に高尙純潔なる婦人にして眞實の心の底より靑年子弟を思ふの Inspiration ある方々に委任仕り一日も早く其實行の擧を見んとを希望此事に御座候匆々敬具

寄書

○紫紅愛するに足らず

東京　小池うめ子

蘭の幽姿なる竹の直節なる固より愛すべく弄すべし梅の冷操なる菊の風韻ある素より感ずべく賞すべし然りと雖ども若し蘭にして幽姿なく竹にして直節なくんば誰人か是れを愛弄すべき彼の梅にして冷操なく菊にし風韻なくんば何人か之を感賞すべき果して然らば四者の愛賞すべき所は其の艷色に非ずして其の德あり聞說世に千紫万紅ありて能く美を競ひ麗を争ふもの殆と枚擧すべからずと雖ども文人雅家の友を爲すもの夫れ幾許かある梅桃の紅艷好し美なれども是れ實に對飲の與を添へ俗客の目を遮るに足り敢て聖哲賢子の賛を得ることを得んや妾玆に到りて心暗に惟へらく女子の名を傳へ譽を得るものは彼の冷艷雪を欺くものに非ずして竹直節梅の冷操あるものならんと然るに世往々閨中に粧を凝し綺羅に心を煩すもの夫れ何の意ぞや秋天男兒の親愛を買はんと欲するか然らずんば春園美花と共に恩情を賣らんと欲するか識ずや節操に貴尊なる事を聞ずや美色麗艷は一世の俗望にして其の德行の如きは千代万世の後鑑なることを噫。

○古人の理想せる紳士佳人

まさを

理想の紳士、理想の佳人てふ、論文一たび女學雜誌上に現はるや、幾多の才子淑女は、其標準ともいひ、資格ともいふべきを悟り得て、自らも期し、他にも望を囑し、大に益せしことなるべし。加之、近頃復、そが懸賞問題を出して、多くの紳士佳人が、巳がじゝ理想せる所を書送られしを見ては、其分析、解剖して餘蘊なきを感嘆し、只かくの如き紳士佳人の多く實在せんことを祈りしが、又此頃古きものゝ本より、古人の理想せし紳士佳人ともいふべきものを見出しぬ。

雜子曰く、それ女は、かたちのよしあしをさらず、言葉すくなに、おいきやうあるこそ、第一の女なれ。おのこは、うちに文字ありて、人のうわさの善惡いはで、みだりにいかりなきを、第一の男といふ。(和論語貴女之部)

さすがは思想緻密ならざる古人のことゝて、その理想せる所も頗る疎なりといへども、亦大に覺悟すべきところあらん、世の人せめてはこれだけなりとも實行せられんことを希ふになん。

開書

○觀宇宙生に答ふ

藤本善治

御親切の注意を謝す、左れども、義と愛とは兩つ乍ら保たざる可からず、余は愛を先にし、義を以て之を制限せんとを旨とすれど、到底義を輕忽にす可らず、義を輕忽にする時は遂に愛を全ふする能はず、決局其眞の愛に非るとを信ず。お申越の件、彼の日に至る迄で既に幾多の忍耐、敎導、を經たる眉にして必竟彼の如くせざれば遂に雙の益とならざるを信ぜしがゆへに候。敢て今日に至る迄で尙は善しと自信する所の衷心を告白す。

附たり、

文論

みれ子

●結婚の大儀　三田の某女史に申します、若夫婦たるべき者の一人が不信者である時は敎會で式を擧げる事は宜しくなかうと思ひます或人にも質しましたが全躰信徒が敎會にて式を擧げるのは上帝の前にて契ふといふのが主眼ですから夫若くは婦たる人が不信者なれば無論上帝の前にて契ふ事はできません、故に敎會で式を擧げるのは單に外形上の儀式に流れます、是は甚だ宜しくない事故御問ひの如き塲合にありては敎會外にて擧げる方宜からうと思ひます、而し只敎會を一ツの家として借受け牧師若くは傳道師とか司會とか何とかする位にて式を行ふのは差支はなかろうと思ひます、而し之は大問題ですから尙牧師や傳道師に御質し下さる事を望みます

●豐前和田睦子氏　記臆云々の書未だ私は讀ません、而し左程著しき功益あるものとは思へません、迚て宜しきや否判斷する事ができませんから今一應御通知を願ひます

●和文學　一女生樣、和文學を學ぶの方法は敎師につきて講義を聞くのが最良の方法でしよふ、他に種々の學び方とてありません、通信にて學ぶのと獨り學ぶとの二ツです、書物によつては此方法にても勉强できましよう、何分問ひがベツトして居る故よき答はできません

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

●大坂ＲＯ君　洒落齋主人は信者ではありません、そして其名の如く彼の「きよめぬ庭」は洒落で書ひたのですから其積りで御讀み下さい、長く申して亦主人から叱られては閉口ですからモー申ません

●和歌を學ふの方　京都覊生氏、獨りで學ぶ事もできましよふが餘程困難です、始めに師につきて其出詠せし所を直して貰はれば上達する事が遲いと思います、始めに師なくして迷ふ時は生涯よき歌はできません、歌は古來の名高きもの多くありますが皆讀む事は六かしく亦實際必要はありません、讀むよりは寧ろ作る事を多くして練習するのがよき方法です。

時事

○勅

勅と云へる一字、吾人臣民に最壯なる思惟を躍起せしむ、何等の狂漢ぞ、徒らに之を奉用し、衆表の衣の影に宜しからぬ趣向を演せんとするものぞ。日本臣民誰れか憤ごふらざるとあるべき。

○勅撰

勅撰議員は當に總べての議員に立まさりたるほどの、功臣、學者、にてあるべし其撰びを啄ふせる人もし與望に適せざるとあらんには、帝恩に感佩するもの甚少ならんを恐る、願はくは今后勅撰は、互撰の前に於て定めさせ玉はらんとを。

○勅撰屡ば替はると云ふ乎

報知新聞に「面白いかな一夜議員」と題する一項あり、勅撰御用召の日、招狀を啄ふせるもの、五人俄かに取消狀を落手したりと云ふ也あゝ是れ何にの面白きとかあらん、帝肯風の如く、一と度び渡りて返りがたし、世にかゝる不始末を出さしむるは、掛りの官吏が不始末にあらずして何ぞ、吾人臣民は陛下の爲めにかゝる不忠の士を容赦す可らず、同胞何にゆえに之を冷々視する乎。

○民法

民法中の、財産取得篇、人事篇遂に去六日を以て發布せらる。來る明治二十六年一月一日より施行せらるゝ筈なり、くわしきとは、再讀三讀の上篤と熟慮し、不都合の箇條は十分に告白して、公明質直なる政府の省顧を促がすとを要す。一讀の后、女學上特に目立つものは左の如し、

隱居を爲すには配偶者承諾せざる可らず。

夫婦財産契約は婚姻の儀式前に爲し公證人をして其書を作らしむべし。

夫又は入夫は、婦又は戸主たる婦の承諾を得るに非ざれば婦の特有財産又は戸主たる婦の財産を讓與し又は之を擔保に供する事を得す。

自巳の勞力に因りて婚姻中に得たる所得は婚姻中の費用分擔の爲に之を配偶者に供出したるものと看做す。

管理の失當に因り夫又は入夫が、婦の特有財産又は戸主たる婦の財産を危險に置く時は、婦又は戸主たる婦は自から其財産を管理せんと請求するを得。

男は滿十七年女は滿十五年に至らざれば婚姻を爲す事を得す。

姦通の元因に由りて離婚の裁判を言渡されたる曲者は相姦者と婚姻を爲す事を得す。

双方又は一方の承諾の全く欠缺したる婚姻は不成立。

姦通（但し夫の姦通は刑に處せられたる場合に限る）、同居に堪へざる暴虐、脅迫、及重大の侮辱、婦又は入夫より其家の男屬親（父母姑舅の類）に對し、又は尊屬親より婦又は入夫に對する暴虐、脅迫及び重大の侮辱等の場合は離婚を請求するを得。

離婚の訴訟中、婦は原告又は被告たるを問はず裁判官の許可を得て住家を去るとを得、此場合に於ては自己の衣服其他の日用物品を持去り且つ必要ある時は養料を請求するとを得。

○時事欄内

盖し「國民之友」以來の流行なるべし、「時事」と云へる欄内は總じてにぎやかなるものと定まり、本來沈質謹嚴の筆法も此内に入れば乍ち壯士らしくなるとあり、之を以て時事の評は冷評にあらずんば罵評、ほらにあらずんば大壯語、要するに紊と三文の價ひもなきもの也、諸雜誌記者、少しく輕躁を謹しみて可なり、時事欄内は特に尤とも神聖にてあるべきものを。

○東京府會內暴言

府下に於ける神田議員の暴言もし眞なりとせば、是れ容易ならぬ事なり、兎角公會を懇親會の席と同一視し、嚴然たる代議士の名を以て匹夫賤丈夫の茶のみ話しを爲すもの多し、昔し德川時代の士らひには、決してかゝる事あらざりき。

○北海の囚徒

北海道に囚徒を送るときは、第一、改心后恩典にあづかる多き事、第二、取扱上慘酷ならざる事、第三、逃走するも直ちに捕へらるゝ事の容易なる等により、道の囚徒は often に歸ると多し、左れば政府はいよ〳〵多く囚徒を彼處にうつさんとすと云ふ。一方より見れば、尤なる策なれざ、左なきだに移住民北海のヘテを恐ろしく感ずるの折柄、政府罪人を多く彼地に放つときかば、今后移住せんとする人々の感觸何如があるべきか、掛念せらる。吾人必らずしも政府が此策を不可とするにあられざ、此際離宮速かに建てられて、陛下の恩、極北にあまねく、万氏をして自から北に光明を望ましむるやう取扱ひ玉はんとを祈るになん。

○坂垣伯の廢娼論

此頃一二の新聞に奇怪なる報道を載せ、廢娼論者濫りに伯を擔ぎ出すと迄記せり必竟廢娼運動の盛隆を挫かんとするの邪策なるべし。過日群馬縣の石島良三郎氏が伯を訪へりしとき、伯は非常の熱心を以て廢娼論に贊成し、當時病氣中なるを以て快よく養生し十分英氣を養つて后ち行いて演說すべしと答へ、尙ほ伯は明治

五年以來常に廢娼に熱心にて屢ば植木枝盛君に其說を傳て演說せしめたりと云へり、且つ彼の長谷川某が廢娼論の如きは實に無禮を極めたる言分にて嚴しく駁擊せざる可らず　自分が演說せば二三時間もかゝるべきゆへ、全快の上行いて十分に述ぶべしと返答ありし趣き、小嶋氏より確かに聞けり。一二の新聞は何を記すとにや、蓋し廢娼論者の姦黨に陷いれんとど見へたり。

○山梨矯風會

山梨縣西八代郡市川大門村は甲府を去る三里にして、有爲矯風的の靑年多し、中に就き小池太三郞、鹽澤寅吉の二氏此頃大感する所ろありて山梨矯風會を起し、風俗を矯正し德義を煥發するを以て目的とす、而して會員は左の條項を確守するものに限ると、

(一)從來家族間に於ける弊風を一洗し一家團欒の實を擧ぐる事　(二)飮酒を絕ち奸淫を禁し優美高尙の氣風を養成する事　(三)虛飾の風習を打破し節儉の美德を發揚する事　(四)鰥寡孤獨を矜恤し博愛的の思想を以て社會に立つこと(五)會員中非德の行爲ありと認むるときは互に相忠告するを憚らざる事

願はくは富士山の高きが如く、又富士川の淸きが如く、長しへに此地立德の標準たらんとを。

○女　編　輯

大同新聞復た條例の改正案を草し、其第六條滿廿歲以上の男子とあるを改むべしと論じて、左の如く言へり、

本條未成年者を以て新聞紙の署名人となさしめざるとは吾輩の同意する所なり然れども其婦人を許可せざるに至ては太だ不可なり現今將來とも婦人の新聞の持主となる者あるべく自ら筆を把て新聞に從事せんと欲する者あるべし將た婦人の印刷所を所有する者あるべし吾輩は决して法律に因て之を差止むるの理由なきを知るなり

之れ更に至公正平の論見なり。

○福澤翁と北垣府知事

男女混淆演劇の事、菊五郞は不贊成のよし、歐洲の意見は未だ聞かず、京都にては財部警部長は之を不可なしとし之が爲風儀を亂るとなしと信ず、府知事北垣氏の意見は如左、

今日の所にて之を許可せずと云ふも餘り感服せざる事にて既に首府たる東京府も之が默許を爲すとの事なれば今國各府縣に於ても亦之が轍を履めば默許するに至らん斯の如き場合に當り獨り京都府のみ默許せざるの舉あらんや故に表面之を許可するを可とせず然れども退いて考ふれば元來我國演劇の事たる歐洲の演劇とは大差あるものにて男子にして女子の風采を巧みに演じ女子にして男子の事を巧に演ずるを以て始めて其技藝を賞賛するを得べきものなり然るに男を男とし女を女とするが如きは技藝の巧拙を鑑別し賞賛する事難きに至らん尙且つ男女混交の演劇より生ずる弊害は亦た多からんと思ふ余は府知事の職に在れば人の自由を拘束するを欲せざる故表面は許可すと雖も一個の北垣を以てすれば世の文學者と共に其害毒を批難せんと欲す(中外電報)

○女新聞廢刊

いと〱心細し。今はや世に殘るは佛教會の雜誌三つ四つと、月一回の「貴女之友」と、月二回の「いらつめ」と、女學雜誌社出版の、女學雜誌、女學生、通信女學とのみ。

○藝妓の訃音を聞て

日本の大臣弔詞電音を送る

とは、十月七日の都新聞其他に堂々揭載したるとにて、西京森脇照香と云へる老妓に對するの處置なるよし。若し同人が維新の頃に酒のお合手たりしと云ふが故ならば尙恕すべし、近頃ろ彼此お目にかゝり何かの世話をするの親しみあるが故と云はゞ、吾人それ何とか評せん。

片々

ふみ子編

●鳥海女學校　本鄕弓町二丁目の鳥海女學校にては今度補充科を置き此科を卒業せしものは無試驗にて東京府高等女學校へ入學し得ることに特約を結びたりと

●大日本婦人衛生會　仝會は去る五日午後一時より宗十郞町の仝會々場に於て開會し役員の選擧を行ひたり加藤鈴木亦會長たり。

●着色煙管の禁止　澳國リンツは昨年十二月廿六日を以てスタイエルマルク、リーセンのヂヨセツフ、アントンデメツの製造に係る亞尼林紅にて着色せる煙管は澳國內務省令(六十六年五月一日七十九年十月廿三日)に抵觸するが故に自今全土澳太利に於て同品を發賣するとを禁止せり(衛生會雜誌)

●條約改正祈禱會　水戶市基督教信徒有志會には對等條約の圓滑に締結せられん爲め去る二十九日(月曜日)より同市上市荒木町一致會講義處に於し一週間連夜祈禱會を開かれたるよし

●京都婦人慈善會　仝會は夏期休會をなし居しが本月四日京都府立女學校內に於て開會せり講師は齊池三溪加藤正矩の兩氏なるよし

●教員の溫習　京都府下の小學教員中有効年限の切れんとする人々及び授業生中教員とならむと望む者の爲にとて去る十月一日より來る廿日仝市師範學校にて溫習會を開かれ居るよし

●高知縣の水害救助　高知縣下の香川高岡幡多三郡の水害遭難者を惠まんが爲め高知基督教靑年會の人には教濟本部を高知市本町の仝會內に置き頻りに有志者の義捐を促され居るよし又其婦人會も扶けんが爲め高知教會の婦人達は戶々に就き寄附金を募り居らるゝとぞ

●地方の禁酒會　伊豫波止濱の吉田覺之助木原通德の二氏(共に大日本風俗改良會員なりと)曾〔曾〕て同南海矯風禁酒會なるものを組織せられしよし

●陸奥夫人の拜謁　陸奥農商務大臣の夫人は本月六日午前十時參內　皇后陛下拜謁を仰付られしよし
●赤十字社々員歸京　土耳其軍艦沈沒に付兵庫和歌山兩縣下へ出張中なりし全社委員高橋穰規氏及看護婦二名は患者快復に付六日に歸京せられたり
●大瓢の獻納　下谷區阪本村眞中桂武氏は曾てより丹精を凝して作り上げたる一斗七升入さ一斗一升入りさ二個の大瓢を宮內省へ獻納せんさ去る四日出願せし由
●便利の手袋　米國紐育の貴女中は小錢附の手袋流行しはじめんさせり此の小錢は左手の掌に附けありて貴女等滊車馬車等に乘るさき右手を以て之を開き金錢なざを取出すに頗る便利なる樣に作くれるなり
●生存者の眞影　土耳格生存人一同は紀念に存せん爲め　皇后陛下より恩賜相成りたるフラチルの病衣を着し赤十字社員等さ神戸治療所構內に整列して寫眞撮り二枚は　兩陛下へ、一枚は小松宮殿下へ奉りたる由

廢娼記事　其三

◎神奈川縣　佐々木笑受郎

足柄郡

上下の兩郡に分る小田原評議を以て、伊藤伯別莊所あるを以て有名なる小田原町は實に其下郡に在り娼妓樓幷を連ねて吐く廓の淫風全町を包むか如し」世いは伊藤伯を知るもの此地に來らば誰か先づ其現今の消息を面接若くは人に問はさらんや笑受郎亦二三の知人及び旅店の主人に之れを尋ね其答ふる所皆同一、信を其答に措かさらんさ欲するも得さるなり況んや又前年の一時話柄の物笑さなりし事あるに於ておや而して其答は實に咄々怪事曰く「伊藤伯小田原に來りしより以來五十有餘名の娼妓を增加したり」さ若し不幸にして此語實事ならしめは咄々怪事にあらすして何ぞ此政治家が……英傑伯の品位に就き笑受郎の容之れを記するすら信を置かせざる談柄一二にして足らず然れども許愈々出で〻愈々怪事ならざるなし咄々……次に快筆すべき一件を聞きたり人あり齊東野人の名を以て左の如く認めし「ハがき」を伯に送りたりさ曰く

有志者は憤然として茶婦は嘆然として同一の評あり曰く伊藤伯來りて小田原町五十名の娼妓を增加したりさ若し夫れ此言をして事實ならせは實に咄々怪事にあらすや野人固より之れを信せす然れども亦決して其事なしとも信すべからす况に今君須らく考一考すべし君は我邦に在りて樞要の地位を占むる人にあらすや其身を以て……君はヨモヤ日本人民がシルクを着めし英國民ならさるを侮りて之れを爲すにはあらさるべし……君一身の害事ならす全國に及ぼすを之れ如何せん吁

素より他人の唇より受けし談柄なれば笑受郎は其眞僞の保證者にあらずして只仰冥耳若し強いて眞僞を確かめんと欲せば請ふ爲めに行きて探偵せよ恐らくは三絃之れを證せん警察帳簿之れを明さん豈に行くもの〻勞を徒にせんや

笑受郎か遊說中最も強く胸を打ち最も甚だしく痛哭し最も長く嘆息し最も熱心廢娼の急務を感じ又最も謹んで上帝に手めし廓のものは右の獻納を演繹し歸納するの時ありし讀むもの果して何か感ずるやア〻

足柄兩郡五名を以て其總議員さす內、原利見辻村德兵衛及び安藤龜太郎の三氏は直に笑受郎の申入を承諾せられて調印したり就中辻村氏の如きは言へり「余か村內亦少なくも十名以上の贊成者あるべしされば用紙を遣されよ」さ其他長谷川豐吉氏及び吉田義方氏(小田原住)は尙早論者なれさも二氏の間自ら差異あるもの〻如し長谷川氏熱心なる廢娼贊成の尙早論者にして吉田氏は寧ろ存娼を去る僅かの一歩を殘る廢娼尙早論者なるもの〻如し宜なり人の言に因れば伊藤伯の妾吉田氏宅地內に隱住すさ兎にも角にも五名の中の三名なれば過半數。

海外通信

○歐洲の女界　（其一）

在米國通信員、稻澤かなる

○グラッドストン夫人　は夏入或は令息ハアバート氏の國會議場に於て演說さる〻度每に臨席して傍聽さる〻由。

○一女史の遺産　過般永眠されし英國の有名なる詩家ミス、エミリー、フェイフハー孃は遺言して僅かの遺存品を除きて孃の所有に屬する財產の全額凡そ六万三千ポンド（一ポンド我貨幣の五圓餘）を婦女子の爲め慈善及び敎育事業を助くる爲さして遺贈されたり。

○うら若の女學士　故アルチビシヨップ（大監督）テイト氏の令孃は單へに慈善的の企望を以て英國ロンドン府の貧屋に簡易なる生活を營み誰人にても孃の救助を乞ひ來る者ある每に悉好く日雇ひ女の如く立振舞ひて貧者を救ひ病者を看護し居らる〻由。

◎週報

◎官令　十月三日　裁判上代位法公布せらる●全日貸借施賃法裁可せらる◎全日地方學事通則公布せらる●七日小學校令公布せらる

◎宮廷　聖上には去る四日西三條侍從を大隈伯の邸へ遣され氣候不順御見舞の旨を傳へしめ給ふなり●有栖川熾仁親王幷妃兩殿下　久しく京都府下へ旅行の處去る四日歸京され昨六日は午後一時より宮城へ參內兩陛下に謁せられたり

●政治　十月五日大成會員芝愛宕館に懇談會を開く●四日內閣臨時會議あり

●敎育　秋田縣并に福岡縣の各高等小學校にては先般知事より交付せられたる天皇　皇后兩陛下の眞影拜戴式を執行せり

●雜報　十月五日明治法律學校の卒業生四百餘名校師を招待し淺草鷗遊館にて謝恩會を開く●四日關西二十二州會の坐長大阪輕罪裁判所より召喚せらる●五日星亨氏明朝す●六日勅選議員の人に富士見軒に懇親の筵を開く●全日東向會の發企人愛宕下青松寺に於て盲人演說會を開く

女學時事

衆議院婦人傍聽の事

巖本善治

譯もなく、條理もなく、必要もあらざるに、殊更ら人氣を害なふの法律は、賢こき政府が決して施行せざるものなり。況んや其事たゞ人氣の善し惡しに關せる耳にはあらで、人權の根本に傷つけ、一國太平和の礎を震動する、至重至大の關係あるものに至つては、民を愛する族の決して爲すまじ所ろのもの也。衆議院に婦人の傍聽を禁ずるなど、之に類す。

今や國會見事に出來上り、人民口を開きて國事を論じ、上下之より最も愉快に相談を爲さんとするの折柄、何の必要もあらざるに、女性惣躰を悉く議院外に拒絕するは抑も何等慘酷の待遇ぞや。婦人が政治上一切の集會に臨席しがたしと云ふすら、輿論は之を駁して大方ならぬ酷待となしぬ。左れど此には尙ほ一二懸の申容へもあるべし、但夫れ衆議院に其の傍聽を禁ずるに至つては、殆んど毫末の理由もなきなり。見よ、政治上の集會には、軍人、警察官、敎師生徒、及び瘋癲白痴のもの共を臨席せしめず、之と共に女性の參聽を禁ずと云ふと、恐らくは多少信切なる可愛らしき心配のありてに由るべし、蓋し過神經心配性の取締向には、往々かゝる例しもあるとゆへ、吾人は其掛念の馬鹿らしきとを告白すると共に、衷心尙ほ幾分の容赦を爲すともあるべし。然るに衆議院の傍聽人としては、軍人あるが故に禁じもせず、敎師生徒なるが故に禁じもせず、亦馬鹿者あるがゆへに禁じもせず、たゞ兇器兇器を携持したる者又は酩酊したる者を禁ずとあるのみ、然らば議場保護の爲めに必要なるは、刀捧などを振廻すものと醉ふて惡口するものとを制禁すれば、何ならんのみ。扨て此二點より言はゞ、婦人は至極温和しきものにて、恐らく何如に優美なる傍聽人にも倚ぞ優るとあるべし、然らば議場は喜んで之を歡待すべき筈にあらずや。學校の生徒にすら聽かせて善きものを、堂々たる有志の婦人に聽かせて何が故に不都合なる乎。吾人はほと〳〵其理由を解するに苦しむ。

女性は寧しろ議場を清くするもの也、女の前にては無禮の口を開かず、又女の前にては喧嘩も和らぐなり、又女の奬勵によつて國を愛し正義の爲に奮立せし大丈夫古今極めて多し。左らば女性が議場に傍聽するは、議員の志を高くし、情けを温たかにし、愛國心を皷舞し、殺風景を沈靜する至大至重の効德あるもの也。然るを右手に此大効德を棄てゝ、左手に不條理不必要の徒法を設けんとすると、抑も何等の迂愚ぞ。吾人は衆議院規則案第百六十五條を全廢せんとを動議す。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

泣て愛する姉妹に告ぐ

女學雜誌社　清水豊子

切に敬愛しまつる姉妹達よ、貴孃等は這回發布せられたる、衆議院規則案第十一章、傍聽人規則中、其第百六十五條に、

「婦人は傍聽を許さず」

と特筆大書しあるを見給ひし乎、曩には政社法改正の不幸あり、今復た、斯の如き規則案を發布せらるゝ、儂等女性の權利は、何處迄狹めらるゝにや、斯く重ね〳〵不幸薄運の、境涯にのみ追遣らるゝ、お互の身は、當さに如何に處すべきか、天なり命なりとあきらめて、耳あるも聽かず、眼あるも見ず、口あるも訴へずして、徒に臺所の片隅に、閉居いたし申べきか、いや〳〵さやうに致居る、塲合には非るべし、夫れも儂等各自一己の事なれば素より姑くの不幸悲境は之れに甘んじ居るべきも、一般姉妹の不幸たり而て我國の大不利なるを奈何。左れば儂等は飽く迄も其不都合と信ずる點を訴へ而して之れを取除くやうに致さればならぬ事と、思ふなり。

全体、儂が茲に、事新らしく申迄もなく、國會の議事に、婦人を與らす、與らさぬと、いふ點にこう議論はあるべけれ、議事を傍聽さする位の事は、是れを許す、許さぬといふて、議論をする程の事にもあるまじと思ふなり、必竟するに、其特別の名稱こそ婦人とはいふなれ、單純なる本元よりいふ時は、寔に皆是憲法に所謂日本帝國の臣民たるに、相違なきものなるのみ、然るに今其日本臣民たる者一半は、其婦女なるが故にとて、國會を傍聽するを得ずといふ、是毫末も、解し難きの事にはあらずや。

元來傍聽には、夫れ〳〵外に規則ありて、或は議員の紹介を得ずば、傍聽を許さぬといひ、或は傍聽券を要すといふ、左れば、今若し婦人にして、國會の傍聽をなさんとするも、亦夫れ〳〵の手續を經て、而る後、議塲に入るを得る事なれば、誰も、彼も、無暗に這入り込むといふ事は、素よりあるべき筈はなし、特に議員が紹介をなし、若しくは傍聽券を與へたる婦人なれば、素より議塲に於て、不都合なる事を爲し出すべき樣はなし、然るに斯の如き六ヶ數規則の上に、更に又婦人は傍聽を禁すと特筆大書して、全く議塲には婦人の隻影をだも止めぬ樣にせられしは、洵に不可思議至極の規定ならずや。

思ふに是は、婦人の傍聽者を、氣遣はれたるにはあらで、婦人は國會を傍聽するの、必要なしと認められたるものならむ乎、然れ共必要なきと、必要あるとは、何に由りて識別せられしにや、今若し、國會の議事は婦人の分限外なれば、といふことあらんに、儂はつや〳〵承服し難きなり。昔し君主專制の治の、行はれたる時分には、人民が政治の事に喙を容るゝは、定し其分限を、侵したる事と思惟せられしならむ、然れ共今日よりして之れを考ふれば、却て治者が被治者の權限を、侵し居たるものなりしは、云ふ迄もなき事と、分りしならずや、左れば今ま迄の習慣を基礎として、婦人が、國會を傍聽するは無要の事なり、其分限を超ゆるものなりと、論斷するは、眼を閉ぢて黑白を分つよりも、猶且一層甚しき誤想にあらずや。

加之ならず、素と〳〵國會てふものは、何の爲に開かるゝものか、一部の人間が、恣に一部の人間を支配するとか、道理に合はぬといふより、人々個々の權利を重んじて、一國の大事を、相談せらるゝには非ずや、然るに今若し、國會は開かれたるも女性は、自己の代表者を國會に差出し能はざるのみか、女性の頭上にも被るべき、一般の國家の利害得失に關する議事をも、傍聽するを得ずといふ、左れは矢張男子てふ一部の人間が、恣に女子てふ一部の人間を、壓制するの實あるものには非ずや、斯の如くにして、萬機を衆議に決すといひ、至善至美なる立憲の政躰を布くといふも、誰か首肯するものあらんや。

今にして臆ひ起せば、去る八月中一新聞紙上風說を載せたるとあり、曰く日本の議會は、婦人の傍聽を禁ぜらるべし、其は婦人若し傍聽席にある時は議員中或は辨舌の爽なるを誇らんとし、或は風采の秀美を衒はんとするものありて、其弊や遂に漫りに辨を弄し、時間を空費する等の事あるべし、故に政府は斷じて婦人の傍聽を許さぬ事とするならむと。儂は其頃此記事を親見したるが、餘り其言の小見らしさに、只一笑に付して止みぬ、然れ共、今日にして結果の、其風聞通りに歸したる事をおもへば、或はかゝる條件も、其一理由として存するならむ乎、と思はれ疑はしき心地す、遙かに聞く、英國の議院は、婦人傍聽席には網を張り置き、婦人の顏を遮れりと、儂は其事の何の必要に起りつるかを知らず、然れ共、若し婦人の容貌の、議員に見ゆるが爲め害ありとせば、網を張るも猶且宜しからむ、未だ俄に日本の如く全く傍聽を禁止するには及ぶまじ、況んや日本の如きは、未だ其事の實際に於て經驗なきをや、確に弊害ありて后、之れを差止むるも、敢て晩きに非るなり、特に又緣も由緣もなき婦人が、傍聽席に在りたればとて、夫れが爲に容儀を繕ひ、辨を弄するが如き議員ならば、若し婦人在らずとも、眞面目に大事を議し得るものには、非じかし。

去りながら、儂は信ず、如何に我立法者は、心配性の人なればとて、よもや、かゝる齒牙にもかゝらざる、幼稚なる議論を根據として、此規則案を、編みたるものには非るを、顧ふに、必ず多年の習慣に拘泥して、婦人の分限てふものを誤りたるに外ならざらむ、儂は今や此規則案を見て、深く姉妹の爲に悲めども、夫よりも猶且一層切に、我帝國議會の爲に、之れを痛惜す。只幸に、此規則案は未だ確定したるものに非れば、文明の思想に富む議員諸氏は、定めて之れに就て、異論を挾まるゝ事ならむ、去れど、儂等婦人も亦、出來得るだけの力を盡して、此枉屈を脫する樣に、致さればならぬとなり。

如何に我愛する姉妹等よ、貴孃達も定めて是に就ては、種々の意見を抱かれ居る事なるべし、果して然らば、何ぞ忍んで、沈々默々たる事やある、一身の不幸不利は、姑く置くも、一般姉妹と國家の爲め、爲ぞ奮起せざる事やある、須らく相謀りて、一日も早く此逆境を脫するの方法を、講ぜられん事を、切に望む、切に望む。

仝件に付板垣伯を訪ふの記

清水豊子

儂は此間衆議院規則案を一見するや直に彼婦人は傍聽を禁すとある項目に大に胸をうたれ侍りしを以て兎やせん角くやせましとさま〳〵に思ひ煩ひ、如何にせば、該項を取除かるる運びに立到るべきやと只管其方法を考へ居たる折ふし、德富老夫人及び矢島かし子の君も訪ひ來まして爭で應分の力を盡さでやはあると促し給ひしを以て、洵に左なり徒に思ひを焦したりとて、何かせむ、いで責てもの手始めにとて、上に掲げたる拙文を草して、世の姉妹に告ぐる事とはなしたるが、更に又思ひめぐらせば、儂の如き、淺學不才の者が只一言二言したりとて、未だ多くの姉妹の、耳を傾くるには至るまじ、左はとていふべき事はいひ了んぬ、いでや此の上は、平素より義俠家として、尊崇し、個人的自由主義主

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

張者の隨一として、仰望しまつる、板垣伯爵の君を訪ひ、其高見を叩きまつりて、世の姉妹に告げ參らせ、一は當局者の注意を、促さばやと思ひ立ち、咄嗟の間、伯に拜謁の許しを得て、昨八日伯を小石川諏訪街の邸に訪ひ參らせぬ。伯は近日長野縣下へ旅立せ玉ふ筈といひ、自由新聞發刊の日も遠からざるを以て、來往者さながらに織るが如く餘程御繁忙の樣子なりき、さるを伯の殊遇に依り纔に其間に於て拜話を得たる事にしあれば、直に伯の御意見として世に公に致す事は、伯に於て御不本意に思し召さるべけれ共、いはでやまんも口惜しければ、玆には只伯の、御談話として、記しまつりぬ、去ながら心して見玉へば、伯が滿幅の意思は、簡短なる御詞の外に、現はれたるふし多からむ。恐らくは儂の筆拙くて充分に其高思を描出し得ざる事を、深く伯と世の姉妹達に謝するになむ。

伯は無論反對　儂は最初伯にしか〳〵と告げまつり儂等婦人は斯く迄情なき規則にて縛られんとは致し侍る如何にせば宜しからむ乎是に就ての御高見はと尋ね侍りして伯は徐に口を開き玉ひ、此間より餘りの多忙にて未だ新聞などは委しく見ねど、夫れは一向、譯の分らぬ事あり、果して左る事あらむには、予の意見を問ふ迄もなく、無論其筋へ上書するも、宜しからむ、議員に意見書を送るも宜し、先づ兎に角に其規則案を一覽すべしとて、新聞紙を取寄せ玉ひぬ、一覽の後、言ひ玉ふやう、是は餘りににべも艶もなき話なり、學生とか、教員とかいふ、制限あらむには、姑く尤なる所もありと致し得べきも、婦人と總括したるは、全く理屈に外れたる事あり、議員に於ても定て、不同意の者多からむ、全躰此規則案を政府にて拵へるといふ事からして既に間違つた話なり、衆議院は役所には非ず人民の相談所なり、故に申さば之れを路傍で開くも又物を喰ひ〳〵聞きても差支なき筈あり、只其大切の相談に音響を妨ぐる等の事ありては不都合故之れが場所を別に設けたる迄の事なれば、左樣に小六ヶ敷規則を拵へて傍聽人の服裝迄を八ヶ間敷いふ譯はなきなり、特に婦人なればとて素より日本人民なるを、己れの國の利害休戚に關する事、己れの家の得失に關する相談を、聞かれぬといふ事はなきなり、日外婦人は政談集會に參會するを得ずとか、いふ事になりしと聞しが是も亦一向に分らぬ話なり、特に國會の如きは、政談演說等とは違ひ、何も政理を、研究する場所ではなき故、猶更婦人が、行けぬといふ道理はなし。

伯の推想　儂は重ねて伯に問ひぬ、政府が斯の如き項目を、設けたる意思は、婦人を無能力者と、見做したるものと、思召さるゝや、將又、他に何か慮りての事に候半んや、伯曰く、一向に主義といふものが立て居ぬから、どの理屈でこうといふ事は、なからむと思ふ。よもや無能力者と見做すなどゝいふ事はあるまじ、婦人は婦人で特有の長所ある者を何ぞ男子に劣れりとする事かあらむ、或は民間黨の氣焔を助長するとでも、思ひしものには、非ずやと思はる、

婦人に政治思想を有たしむれば、自然民間に、政治家を多く出す譯なれば、或は夫等の邊を、掛念したるには非ずやと思ふ、佛蘭西などでは、妙齢の婦女が、主に戰士の勇壯なるものを慕ふを以て、陸軍士官たらむと志す男子、多しと聞けば、夫等の例を思ひて、婦人に政治思想を生ぜしむれば、隨て政治の事に、喧擾する男子、多きに至らむと、思ひしもの乎、（いひつゝ少しく笑を含まれ）若し果して婦人に在る勢力あらむには、又譬て、男子の愛國心を弱ますの勢力ありと云はねばならぬなり、假令ば夫が、愛國の熱情より政治の事に奔走するに、妻は其袖を扣へて、良人よ乞ふ顧みて子孫の爲に計れよ、良人の身は奔走に疲れ、良人の家産は、運動費に衰ふ、妾と小兒は如何すべき、命ありての物種なれ、財産ありての自由ならずや、一家の事を先にして、而して後に、國の爲に働け、といはん時、是に伴なふ男子は如何、良し腸は鐵の如く堅く、良し愛國の熱情は火の如く熾なるも、爲に幾分か、弱まさるゝ事なき乎、之に反して夫が、誓て報國の効を致さんとするも、顧て妻子の憂苦を思ひ、躊躇逡巡したらん時、夫を勵まし、夫を扶け、夫をして内顧の憂なく能く國家の爲に盡さしむると何れか善き、今若し婦人が愛國の志なく政治に冷淡ならんには、其結果は何に歸すべきか、思はざるの甚しきなり、予は寧ろ願ふドン／＼夫を刺擊して、夫が賄賂を取りたる時なとには、世間の人々よりも前に、先づ妻君から、之を攻擊して貰ひ度ものなり云々。儂は又重ねて問ひぬ、政府は國會を政談の場所と見做せしものに候半か、伯曰く否全く然りといふにも非るが如し、其は政談の場所と認めしならば、矢張陸軍士官、若くは敎員生徒などゝ、男子に就ても、制限を置くべき筈なるに、其制限はなき樣なれば、其點よりいふ時は、强ちに、政談の場所と、認たるにも、非るが如し、ドウセ、理屈の分た話ではなし、自家撞着の甚しきのみ。

伯の厚意　儂は伯に乞ひぬ、願はくは、儂等仝志の者共の爲に、御閑暇の日を以て、一塲の御演說をなし玉へ、儂等は、伯の御意見として、是を世に表白するを得ば、如何計りか幸ならむ、伯曰く、敢て否むに非ず、左れ共目下寸暇なきを奈何、何れ今度發刊する、自由新聞に於て、予が充分に論議すべければ、予が演說致すも仝じ事なり幸に領せよと。

以上は、儂が伯と、談話致たる要點を、摘みたるものなり、是に依て儂は伯が婦人に對する意思如何を知り、又儂は、今後婦人の爲に如何に高力を垂れ玉ふべきかを知る、筆を擱くに當り、謹んで伯の爲に萬歲を唱へ、姉妹の爲に、此有力なる良保護者を得たるを祝す。

東洋英和女學校廣告欄

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に涉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす每科受持の敎員孰れも熟達善良あり然して本校の敎授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所あり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地

東洋英和女學校

廣告

禁酒嬌風 **三女傑之寫眞** カビネット板 鮮明精美 **三枚揃**

定價金五十錢但遞送料共（五厘郵劵代用隨意）一枚定價郵稅共各金拾七錢宛

我國禁酒嬌風事業到る處に興り殆んど一般の輿論たらんとす素より時勢の然らしむる處とは云へ抑亦其始めを按するに萬國婦人嬌風會より我國に演說者を派遣せしめしに基因せずんばあらず此寫眞は同會長ウィラード孃及び曩に我國に渡來せし各處に遊說せられたるレビット夫人并にアッケルマン孃の三女傑の寫眞なり禁酒家嬌風家たる者之を室内に揭示するは裝飾の美を添ふる而已ならず自ら精神を皷舞し加之對客の際嬌風禁酒の談話を爲すに其端緖となる最も適當の品なり

同麻布區本村町二百十七番地 **禁酒雜誌發行所**

同芝區森元町二丁目 **荒川高春**

廢娼有志大親睦會 來る十七日午后一時より京橋新肴町開化亭に於て開會す有志諸君來會あれ會費金七錢

議員、官吏、有志者に呈す

拜啓益々御淸安奉賀候國家の爲め重職に就き日夜御黽勉乍陰邦民の爲に鳴謝致居事に候陳者近年女子敎育頓かに進步し二十三十にして初めて女學校に入る人も多く有之の勢ひ喜ばしきことと存候然るに既に一家の妻とあり特に多忙多用の人を内助せらるゝの令閨諸君は出でゝ學び給ふの暇も固より少きの處ろ、世は息まず開化し婦人の地位著じるしく進步致候に付きては、今後婦人同性の往來は彌よ自由になり女性が外に出でゝ宴會交際に周旋せらるゝと亦彌よ頻繁と可相成歟其際賢夫人にして萬一普通一般の學識に欠くる如きこと有之時は談話應接の砌り面白からぬこと數多出來すべくと密かに掛念するもの少からず候。

弊社此等の不便に痛歎し、毎月一回通信女學講義錄と云へるを出版し、學校に通はれぬ婦人は家に居て獨學する樣、當今の女が心得べき學問を悉く講義し、一日四枚宛讀む時は家政、育兒、看病、衛生、生理、漢學、和學、英學、歌、百人一首講義、作文、算術、動植、理化學、萬國及日本の歷史、並に地理、等を一年にて滯りなく卒業し女學雜誌社の卒業證書を受くる規則を設け講義錄の文章は分り易き上に一々假名を附け、且つ繪を入れ、尚不明瞭の所は質問に答へ專ら信切を旨とし、學校にて直ちに敎授を受くるよりも一層便利多く致候、毎月々謝卅二錢拂込の人には二百枚餘の講義錄を月々送ることに候目下既に第十卷を出版致たれども、今月新たに入學しる其第一卷より順次に稽古するも宜しきことに候。

右の主旨何卒御賞玩被下弊社の精神御吹聽の程偏へに奉委賴候、凡そ賢夫人家に居て内を修むるの暇ま〳〵、當今の女學悉皆講習の上に内助の德一きわにして所謂烈夫賢妻共に國事に盡力するの美觀國中に充滿するに至らば邦家の幸福至大と存じ候敬白。

右通信女學講義錄壹册三十二錢（全國無郵稅）每月十日出版、半年前金壹圓八拾錢。一年前金三圓五拾錢。女學雜誌と併せ購讀の人には壹割を減す。

東京市麴町區六番丁六番地

女學雜誌社

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

加減順氣散

定價四錢五厘
振出しぐすり

婦人血の道子宮より發る的病男女四季感冒頭痛其他は包書に委し

本家 東京日本橋區通一丁目 須原屋 北畠茂兵衛

女學雜誌社出版書目

著者	書名	冊數	價金
鈴木弘恭大人述	つれ〳〵草講義	一冊	價金八錢
鈴木弘恭大人述	文法口授	一冊	同十六錢
船越鼎太郎君著	產婦小兒攝生法	一冊	同十六錢
關輪正路君纂	ひめ鑑	一冊	同四十五錢
横山雅男君著	婚姻論	一冊	同廿錢
島田三郎、植木枝盛兩君演說	廢娼演說	一冊	同五錢
巖本善治述	妓樓全廢	一冊	同五錢
嶋田三郎、巖本善治同著	公娼可滅	一冊	同五錢
農學士寺尾熊三著	植物學	一冊	同十二錢
林學生星野愼著	昆虫、植物、金石採集法	一冊	同十五錢

下六番町六番地 女學雜誌社

保險附風琴各種精製廉價販賣ス

麹町區三番町四番地 風琴製造所

風琴直シ御報知次第直ニ參上極廉價ニ修覆可仕候

女學生第五號目次

社說 ホームの眞相 天知子
批評論(前號のつゞき) 雲峯生
文欄○變遷(安田岩子)○美人探進圖(松本錦子)和歌數首○魚を放つ(中谷早稻子)○和歌二首○墜果(松田千子)○豐年を祈る詞(佐藤德子)○遊相日記(松本錦子)○偶感(かへで)○友のまじはり(平關せつ子)○歸宿の感(堀場いと子)○學年の終りの感を述ぶ(辻甫)○去りたし塵世を(深山すゞし)○旅立つ朝(淸川女史)○扇のはなし(英文)(栗本すて子)○英文批評(青葉つゆ子)
講武欄 薙刀組手(つゞき) 風流齋
公評○霞仙女史の文を讀みて(蘆の舍)○すぐれもの(四下生)○うまいとまづい(晴野女乙)○第四號文欄の短評(竹外小史)
寄書○和歌十首○小說返魂香(其三)(柵山人)
女生交詢 牛込不來方女子に辨ぜん(M、S、N生)
報告廣告
以上

發行所 下六番町六番地 女學雜誌社

定價		
一冊。	六錢	郵稅。五厘(但府內無郵稅)
十冊。	五十八錢	郵稅。五錢(同前)
半年分	一圓四十三錢	府外は一圓五十六錢
一年分	二圓六十錢	府外は二圓八十六錢

發行所 東京市麹町區下六番町六番地 女學雜誌社
編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 堀口庄三

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

加減順氣散

（かげんじゅんきさん）

定價四錢五厘

振出しぐすり

婦人血の道子宮より發る的病男女四季感冒頭痛其他は包書に委し

本家　東京日本橋區通一丁目　須原屋　北畠茂兵衛

女學雜誌社出版書目

鈴木弘恭大人述　つれ〳〵草講義	一冊	價金八錢
鈴木弘恭大人述　文法口授	一冊	同十六錢
船越鼎太郎君著　產婦小兒攝生法	一冊	同十六錢
關輪正路君纂　ひめ鑑	一冊	同四十五錢
横山雅男君著　婚姻論	一冊	同廿錢
島田三郎、植木枝盛兩君演說　廢娼演說	一冊	同五錢
巖本善治述　妓樓全廢	一冊	同五錢
嶋田三郎、巖本善治同著　公娼可滅	一冊	同五錢
農學士寺尾熊三著　植物學	一冊	同十二錢
林學生星野愼著　昆虫、植物、金石採集法	一冊	同十五錢

下六番町六番地　女學雜誌社

保險附風琴各種精製廉價販賣ス

麹町區三番町四番地　風琴製造所

風琴直シ御報知次第直ニ參上極廉價ニ修覆可仕候

女學生第五號目次

社說　ホームの眞相　天知子

批評論（前號のつゞき）　雲峯生

文欄○變遷（安田岩子）○美人採蓮圖（松本錦子）和歌數首○魚を放つ（中谷早稻子）○和歌二首○墜果（松田千子）○豐年を祈る詞（佐藤德子）○遊相日記（松本錦子）○偶感（かへで）○友のましはり（平關せつ子）○歸宿の感（堀塲いと子）○學年の終りの感を述ぶ（辻甫）○去りたし塵世を（深山すゞし）○旅立つ朝（淸川女史）○扇のはなし（英文）（栗本すて子）○英文批評（靑葉つゆ子）

講武欄　薙刀組手（つゞき）　風流齋

公評○霞仙女史の文を讀みて（蘆の舍）○すぐれもの（四下生）○うまいとまづい（唷野女乙）○第四號文欄の短評（竹外小史）

寄書○和歌十首○小說返魂香（其三）（柵山人）

女生交詢　牛込不來方女子に辨ぜん（M、S、N生）

報告

廣告

以上

發行所　下六番町六番地　女學雜誌社

定價			
一冊。	六錢	郵稅。五厘	（但府內無郵稅）
十冊。	五十八錢	郵稅。五錢	（同前）
半年分	一圓四十三錢	府外は	一圓五十六錢
一年分	二圓六十錢	府外は	二圓八十六錢

發行所　東京市麹町區下六番町六番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三

遞信省認可

Oct. 1890
No. 235
Wason
HQ
1104
J34+

女學雜誌

社説　モルモン宗

論説　小笠原氏禮論

明治二十三年十月十八日發行
第二百三十五號
一册六錢。每土曜日發兌

言文一致は昔からある　五々生

一家評　雲峯子

女學雜誌の評　愛山生

磯筆草　花圃孃

處女よ處女よ勿ニ結婚一

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY